

# 小樽市経済動向調査結果

1. 調査期間：2022年4月から6月
2. 調査対象：小樽市内の企業272社
3. 内 訳：製造業62、卸売業27、小売業44、運輸・倉庫業20、観光業46  
サービス業39、建設業34
4. 回答企業数：175社（64.3%）
5. 調査方法：調査票によるアンケート

※DI（景気動向指数：ディフュージョン・インデックス）とは・・・

好転（増加）企業割合から悪化（減少）企業割合を差し引いた値のことで、この数値がプラスかマイナスか、そしてその大きさによって景気の動きを時期的な推移の中で把握します。

## 概 況

### — 行動制限の解除により業況は改善、仕入単価や燃料費の上昇が課題 —

前年同期（2021年4月～6月）と比べた今期（2022年4月～6月）の状況  
今期と比べた来期（2022年7月～9月）の予想

企業の景況感を示す業況判断DIは▲1.0で、前年同期と比べ22.6ポイント上昇しました。新型コロナウイルスの影響が弱まり、行動制限等が解除され、売上や人流は回復傾向にあります。しかし、全ての業種で仕入単価や燃料費の上昇が深刻な課題となっており、採算は低調に推移しました。

業種別DIは、製造業が同18.3ポイント低下の▲29.7となりました。売上DIはプラスに転じましたが、業況DIと採算DIは低下しました。仕入単価は回答があった全ての企業で上昇しました。食料品製造では人材不足の傾向が見られます。卸売業は同15.8ポイント上昇の0.0となりました。売上DI、採算DIどちらもプラスに転じましたが、製造業同様に、回答があった全ての企業で仕入単価が上昇しました。小売業は同29.8ポイント上昇の3.9となりました。売上DIはプラスに転じましたが、採算DIはマイナス水準で推移しており、仕入単価や経費の上昇による収益の減少の影響が見られます。運輸・倉庫業は同18.0ポイント低下の▲23.5となりました。旅客運送の売上は増加傾向にありますが、従業員不足が続いています。貨物運送では旅客運送、倉庫と比べて売上の減少傾向や業況の悪化傾向が強く表れています。倉庫では在庫量と保管残高が減少傾向にあります。観光業は同105.9ポイント上昇の42.0となりました。業況DI、売上DI、採算DIいずれも大幅に上昇し、プラスに転じました。日本人客数DIや客単価DIも大幅に上昇しましたが、仕入単価の上昇が経営を圧迫していません。サービス業は同34.8ポイント上昇の4.3となりました。売上DI、客単価DI、利用客数DIも上昇し、好転傾向が見られますが、他業種同様、仕入単価の上昇傾向が大幅に強まりました。建設業は同8.0ポイント上昇の▲4.5となりました。業況DI、売上DI、採算DIいずれも上昇しましたが、マイナス水準にとどまりました。受注額DI、引合いDI、資金繰りDIは全てプラスに転じましたが、材料仕入単価DIは昨年と同様に上昇傾向にあり、従業員の確保難と並ぶ主要な課題です。

来期の業況判断DIは5.8で、プラスに転じると予想しています。新型コロナウイルスの流行沈静化や、インバウンドの段階的受け入れによる売上や人流の増加が期待されますが、仕入単価や燃料費の更なる上昇やロシアのウクライナ侵攻の影響が懸念されます。

業況、売上、採算

今期（2022.4～6）の業況判断DIは▲1.0で、前年同期(2021.4～6)と比べ22.6ポイント上昇しました。

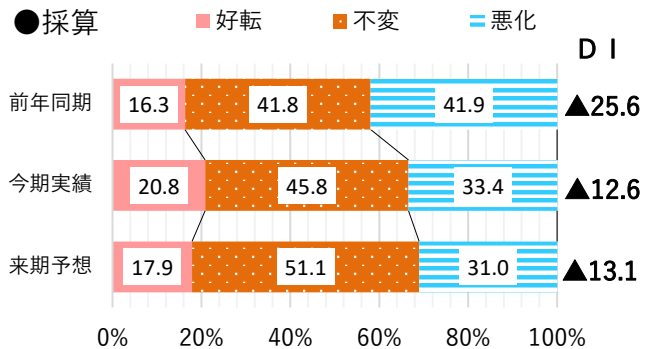
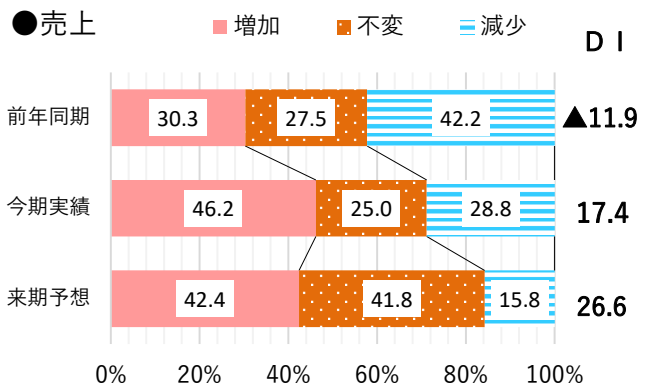
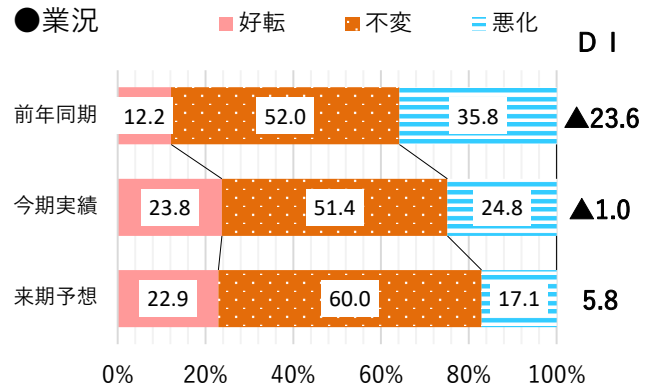
来期（2022.7～9）は、業況がプラスに転じると予想しています。

今期の売上DIは17.4で、前年同期と比べ29.3ポイント上昇し、プラスに転じました。

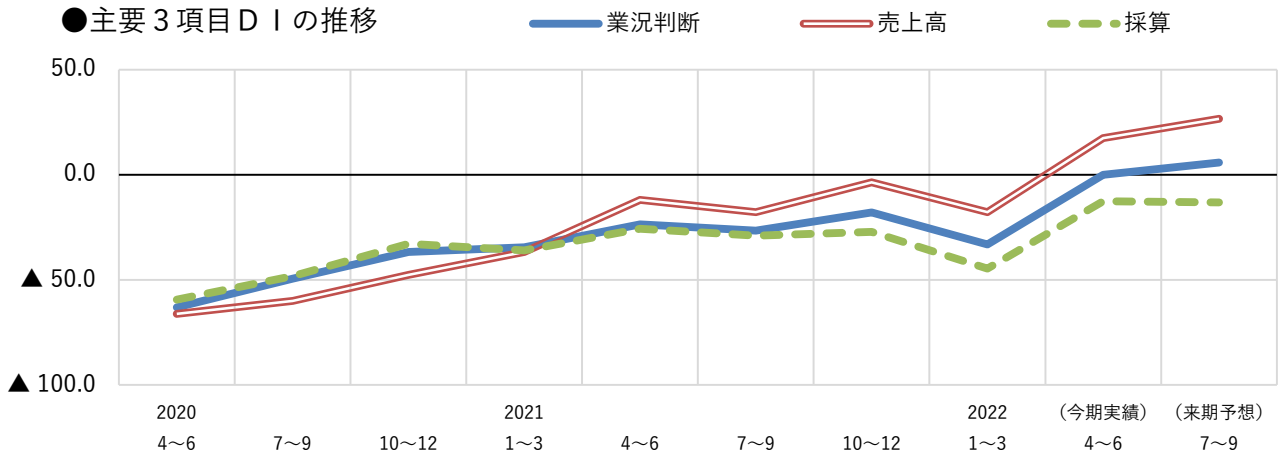
来期は、売上の増加傾向が続くと予想しています。

今期の採算DIは▲12.6で、前年同期と比べ13.0ポイント上昇しました。

来期は、採算に大きな変化はないと予想しています。



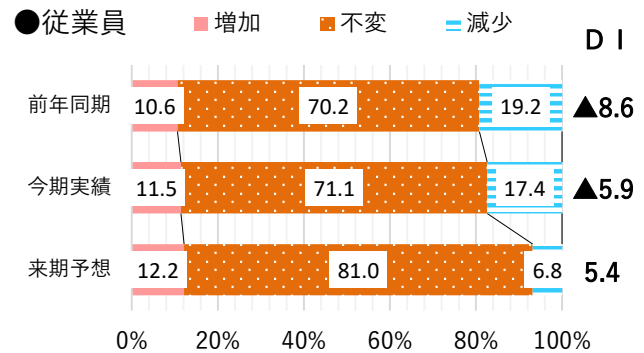
●主要3項目DIの推移



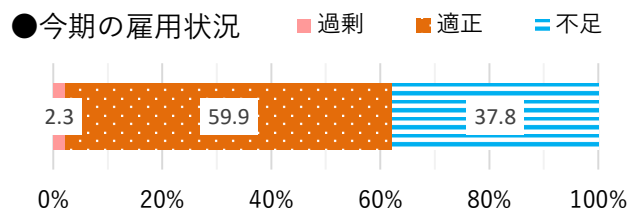
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは▲5.9で、前年同期と比べ2.7ポイント上昇しました。

来期は、従業員数が増加に転じると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業の割合は2.3%、適正であると回答した企業の割合は59.9%、不足していると回答した企業の割合は37.8%でした。



従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答で、全業種の46.8%を占めています。

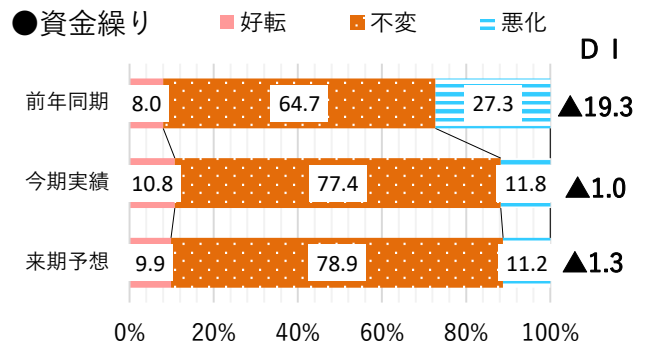
次いで多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、不足している」という回答でした。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	1
	適正	9
	不足	12
不変だった	過剰	3
	適正	82
	不足	38
減少した	過剰	1
	適正	10
	不足	19

資金繰り、設備投資

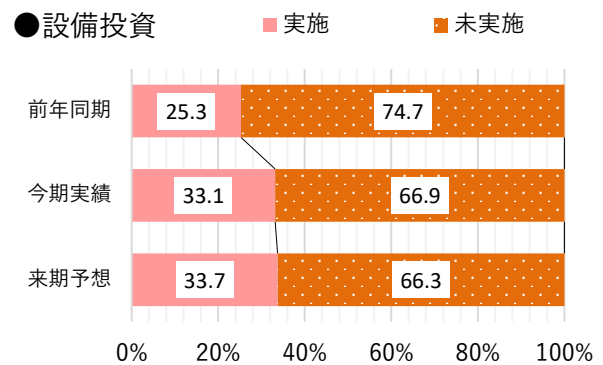
今期の資金繰りDIは▲1.0で、前年同期と比べ18.3ポイント上昇しました。

来期は、資金繰りに大きな変化はないと予想しています。



新規設備投資の動向では、回答のあった175社の33.1%にあたる58社が実施、前年同期と比べ7.8%上昇しました。投資内容は、1位が「車両運搬具・輸送機材」、2位が「建物」の順です。

来期は、33.7%にあたる59社が設備投資を計画していると回答しています。

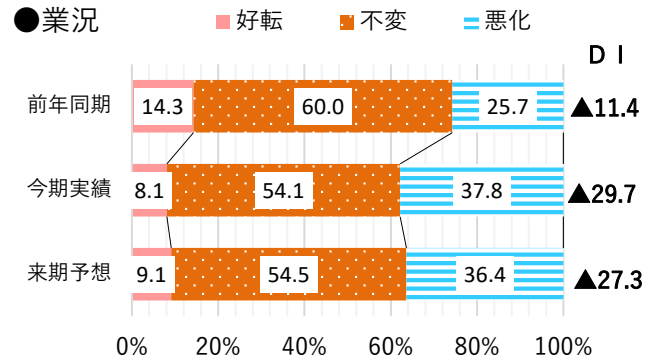


# 製造業

## 業況、売上、採算

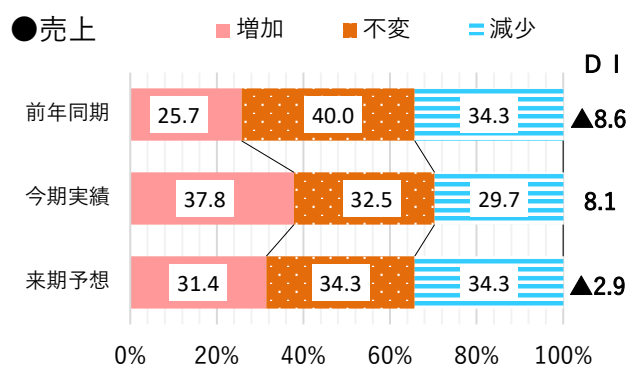
今期(2022.4~6)の業況判断DIは▲29.7で、前年同期(2021.4~6)と比べ18.3ポイント低下しました。

来期(2022.7~9)は、業況の悪化傾向が続くと予想しています。



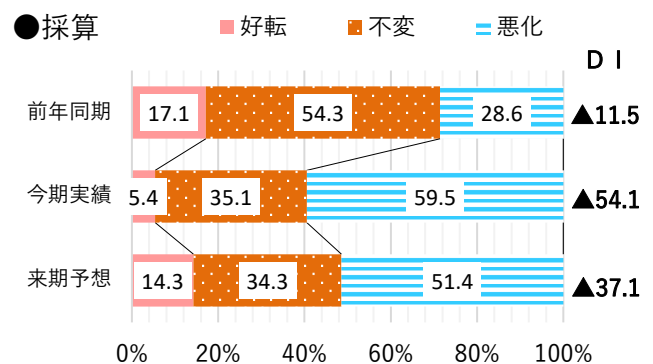
今期の売上DIは8.1で、前年同期と比べ16.7ポイント上昇し、プラスに転じました。

来期は、売上がマイナスに転じると予想しています。

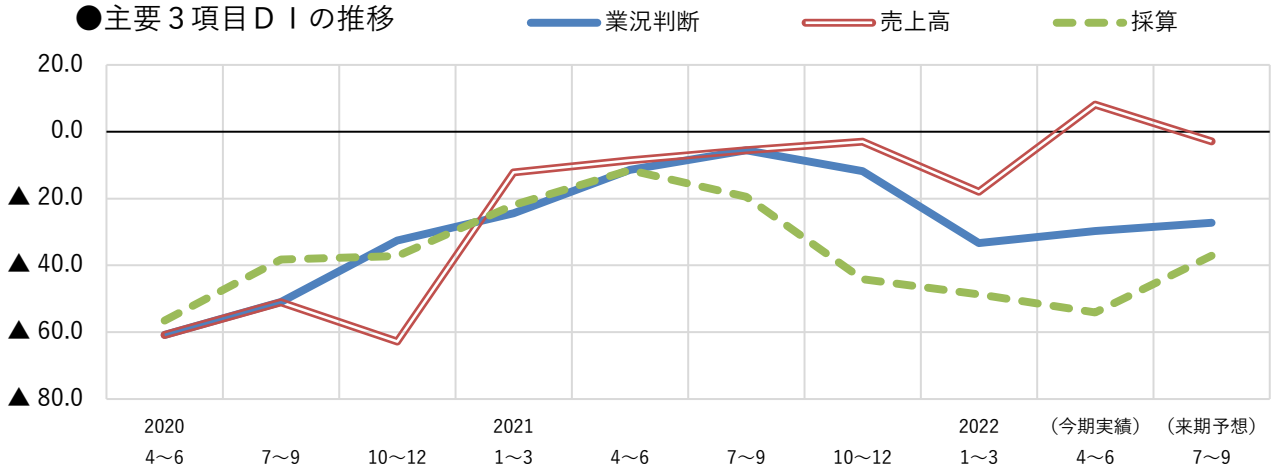


今期の採算DIは▲54.1で、前年同期と比べ42.6ポイント低下し、大幅に悪化しました。

来期は、採算の悪化傾向が弱まると予想しています。



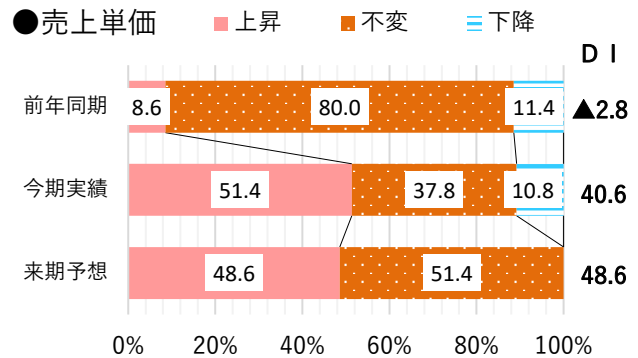
### ●主要3項目DIの推移



売上（加工）単価、原材料仕入単価、設備操業率

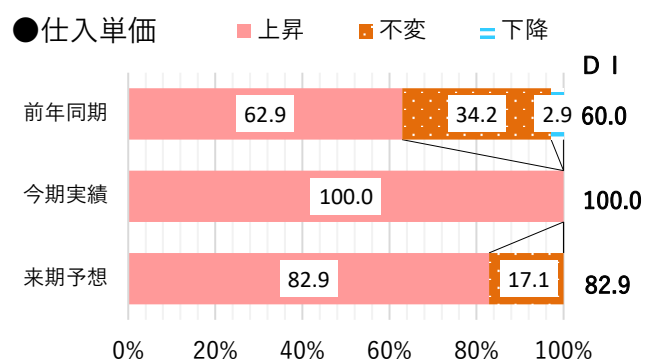
今期の売上単価DIは40.6で、前年同期と比べ43.4ポイント上昇し、大幅なプラスに転じました。

来期は、売上単価の上昇傾向が続くと予想しています。



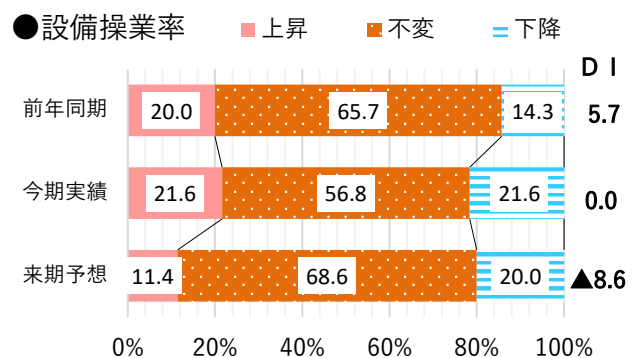
今期の仕入単価DIは100.0で、前年同期と比べ40.0ポイントと大幅に上昇しました。

来期は、仕入単価の上昇傾向が続くと予想しています。



今期の設備操業率DIは0.0で、前年同期と比べ5.7ポイント低下しました。

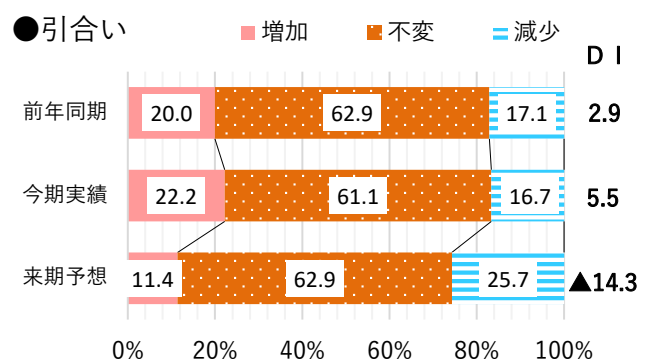
来期は、設備操業率がマイナスに転じると予想しています。



引合い

今期の引合いDIは5.5で、前年同期と比べ2.6ポイント上昇しました。

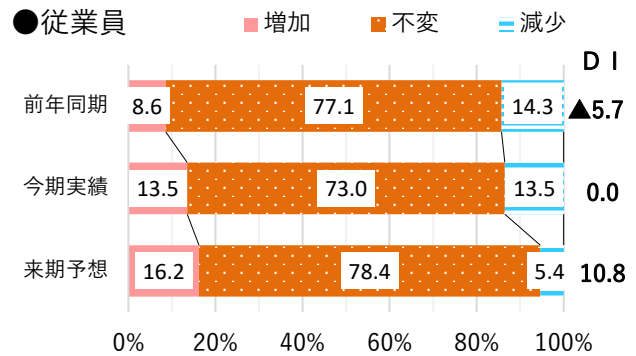
来期は、引合いがマイナスに転じると予想しています。



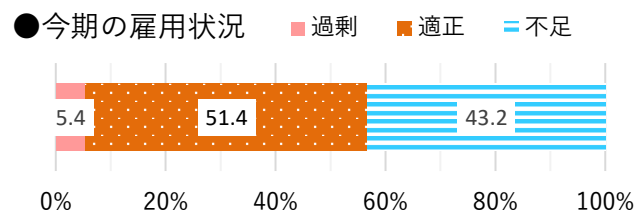
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは0.0で、前年同期と比べ5.7ポイント上昇しました。

来期は、今期と比べ従業員数がプラスに転じると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業の割合は5.4%、適正であると回答した企業の割合は51.4%、不足していると回答した企業の割合は43.2%でした。



従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答で、製造業全体の43.2%を占めています。

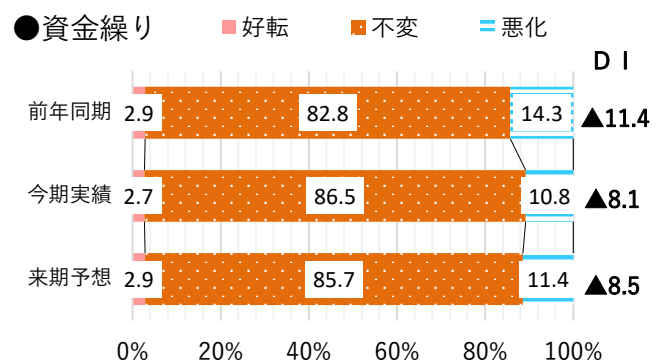
次いで多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、不足している」という回答でした。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	1
	不足	4
不変だった	過剰	1
	適正	16
	不足	10
減少した	過剰	1
	適正	2
	不足	2

資金繰り、設備投資

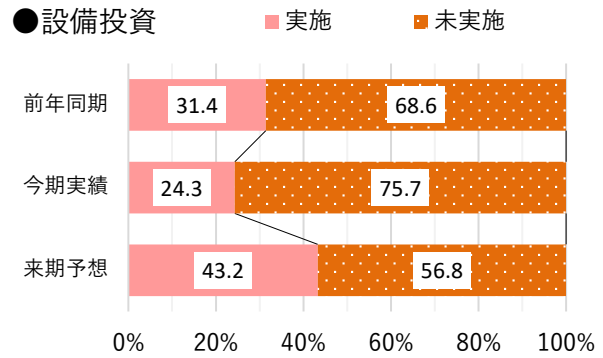
今期の資金繰りDIは▲8.1で、前年同期と比べ3.3ポイント上昇しました。

来期は、資金繰りの悪化傾向が続くと予想しています。



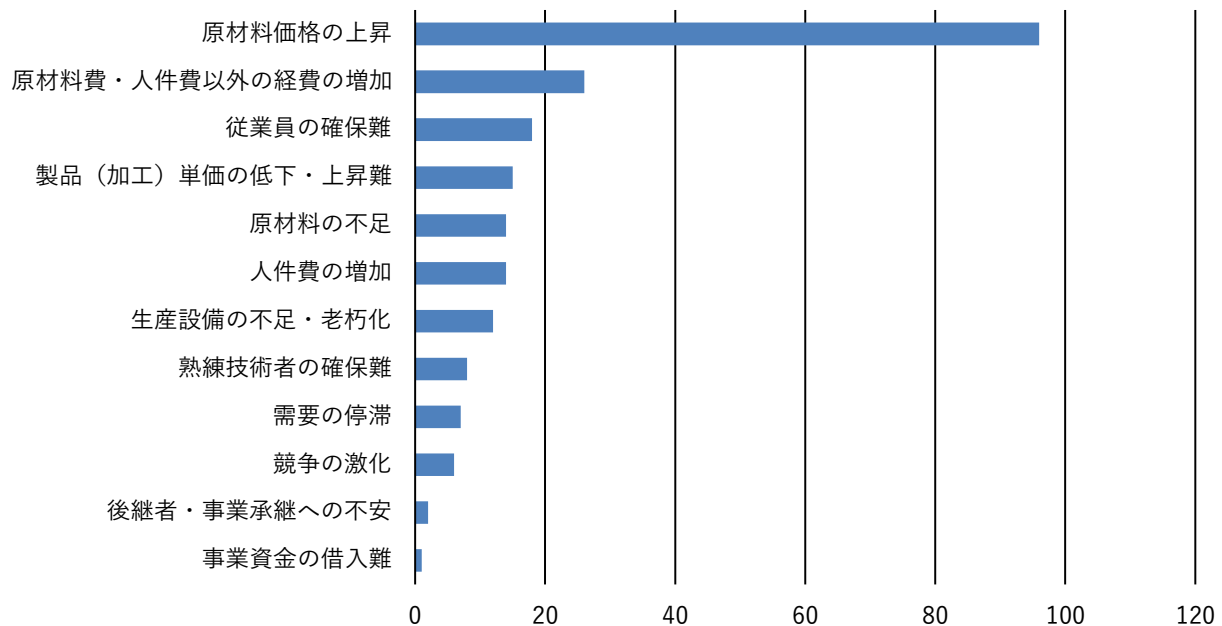
設備投資を実施した企業の割合は24.3%で、前年同期と比べ7.1%低下しました。投資内容は、1位が「生産設備」、2位が「工場建物」、「付帯施設」（同位）の順です。

来期に設備投資を計画している企業の割合は43.2%で、増加を予想しています。



### 経営上の問題点

今期直面している経営上の課題は、1位が「原材料価格の上昇」、2位が「原材料費・人件費以外の経費の増加」、3位が「従業員の確保難」の順です。



### 企業の声

[今期の業況について]

- 原材料仕入単価が上昇し続けており、納期が延長傾向にあるため、生産計画の見通しが喫緊の課題だ。材料を先行発注で確保しているが、今後は資金繰りに影響が出る可能性がある。（金属製品）
- 工事の延期により、売上が減少した。工事の受注件数が減少し、工場操業率が下降した。価格転嫁が追い付かない。人事評価制度導入に伴い、賃金を引き上げた。（金属製品）
- 材料価格の上昇を受け、販売価格を改定した。（金属製品）
- ロシアによるウクライナ侵攻により、原材料価格が高騰している。また、資材等の仕入先からの値上げの連絡も増加した。商品の販売先には値上げ受け入れの要請をしており、概ね理解をいただいている。パート従業員の求人を出しているが、採用は難航している。（食料品）
- 原材料価格だけではなく、資材等を含めたあらゆる仕入価格が上昇している。3月に商品価格を改定したが、仕入価格の上昇に追い付かず、採算は改善していない。状況は厳しい。（食料品）



- 新型コロナウイルスの流行に伴うイベントの規制や、各種制限が緩和されたことで、売上が増加した。海外からの引合いも増え、業況は好転した。（食料品）
- 原材料価格、燃料価格、物流コスト、その他全てのコストが上昇し、非常に厳しい状況だ。（食料品）
- 原材料仕入単価の上昇により粗利益率が悪化した。光熱費の上昇が、収益が圧迫している。（食料品）
- 6月に原材料仕入価格が8%程度値上がりしたため、自社製品の価格を同程度引き上げた。（食料品）
- 新たに開発した加工品の売上が好調だ。原料の数の子の仕入単価が高騰している。（食料品）
- 今のところは順調だが、自社商品の値上げが今後も受け入れられるのか不安だ。（食料品）
- 原材料価格や燃料高の上昇による収益圧迫が、深刻なレベルになりつつある。（食料品）
- 原材料仕入価格の上昇や、慢性的な人手不足に悩まされている。（食料品）
- 原材料仕入単価の上昇が経営を圧迫している。（食料品）
- まん延防止等重点措置の解除に伴い、家飲み需要が減少し、売上が減少した。（飲料）
- 対前期比で売上は15%、原材料仕入価格は33%上昇した。原材料価格や、電気料金、運送料上昇の影響は大きい。取引先にはこれらの状況を説明し、製品価格の引き上げを打診しているが、業界大手の企業には期中の価格見直しを拒否されるケースが目立つ。当社では製品価格引き上げを強行し、売上の増加と採算性の確保に取り組んでいる。（プラスチック）
- 原材料価格の高騰が続いており、販売価格の引き上げを進めているが、完全な価格転嫁は難しく、採算は厳しい。原材料は不足しており、納期も不安定だ。仕事量は増え、工場の人員が不足しているが、求人を出しても応募がない。（プラスチック）
- 原材料仕入単価が上昇しているが、価格転嫁が追い付かない。（プラスチック）
- 原油高に伴い、原材料のナフサ価格が上昇傾向にある。（プラスチック）
- 中国等海外産製品の安定的な輸入に対する不安が高まっており、国内調達の動きがある。（ゴム製品）
- 売上は増加したが、原材料価格も上昇した。（紙製品）
- 新型コロナウイルスの流行で社会が停滞し、観光客が減少している。小樽は観光都市なので、新型コロナウイルスの終息による回復を待つしかない。（印刷）

## [来期の業況について]

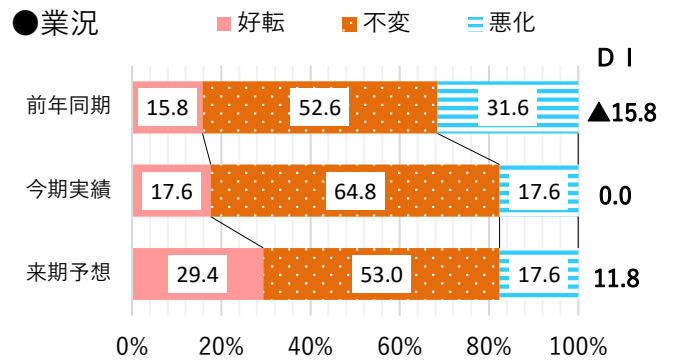
- 工事の規模が縮小し、売上の減少が予想される。また、材料費の逼迫により利益率が悪化する見込みだ。賃金引き上げ分の価格転嫁は難しいと思われる。（金属製品）
- 今期と変わらないと思うが、東欧情勢と中国のロックダウンの影響が出始められると思われる。（金属製品）
- 数の子の仕入単価高騰および円安の影響が不透明だ。コロナ禍や世界情勢の悪化に伴い、機械部品等の調達が難しくなり、生産への影響が予想される。主力加工品の売上は落ち着くと思われる。（食料品）
- 原材料、包装資材等の値上げの連絡が来ている。価格転嫁は必要だが、売上への影響が見通せない。エネルギー価格や為替の状況も、業況に大きく影響する。（食料品）
- ロシアによるウクライナ侵攻の状況次第で、原材料の調達が不安定な状況が続く。売上は大きく変わらないと思う。（食料品）
- 卸売単価の大幅な引き上げを予定しており、売上が減少すると思われる。（食料品）
- ロシアへの経済制裁により、海産物の輸入が滞れば業績は悪化する。（食料品）
- 商品価格の改定を予定しているが、売上の減少が不安だ。（食料品）
- 原材料価格の高騰と、慢性的な人手不足が続く見込みだ。（食料品）
- 今期同様、製品価格の引き上げを予定している。（食料品）
- 原材料価格の高騰とインフレが続くと思われる。（食料品）
- 夏期のイベント再開と、お中元の時期に合わせた販促策によって売上の回復を図る。（飲料）
- 新型コロナウイルスの流行により減少していた売上は、回復に向かうと思われる。販売単価は今期引き上げた分上昇する。原材料価格の上昇傾向が一段落し、価格交渉は落ち着くと思われる。定年退職予定者分の人材確保に取り組む。（プラスチック）
- 売上単価の引き上げは継続する。円安傾向が進むと、原材料価格はさらに上昇する。（プラスチック）
- 前期同様、原材料の高騰が続くと思う。（プラスチック）
- ウクライナ侵攻等、見通しが立たない状況が続く。（ゴム製品）
- 概ね今期と同様だが、製品価格の改定を予定している。（紙製品）
- 従業員の高齢化に伴い、熟練技術者の確保が難しくなってきている。（衣服）

# 卸 売 業

## 業況、売上、採算

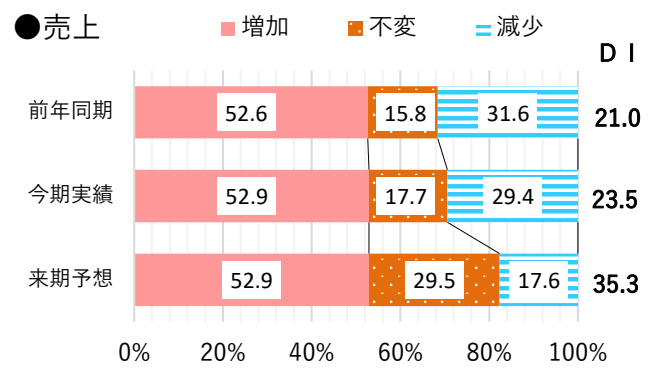
今期(2022.4~6)の業況判断DIは0.0で、前年同期(2021.4~6)と比べ15.8ポイント上昇しました。

来期(2022.7~9)は、業況がプラスに転じると予想しています。



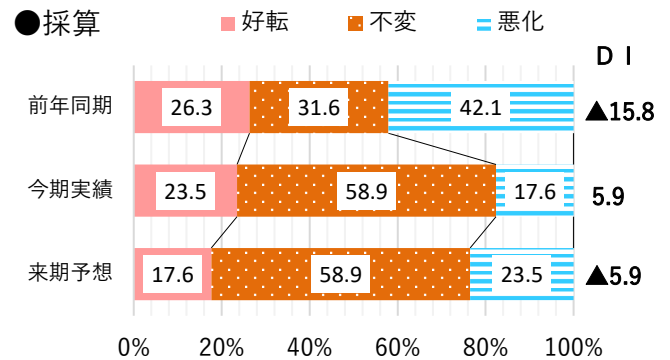
今期の売上DIは23.5で、前年同期と比べ2.5ポイント上昇しました。

来期は、売上の増加傾向が続くと予想しています。

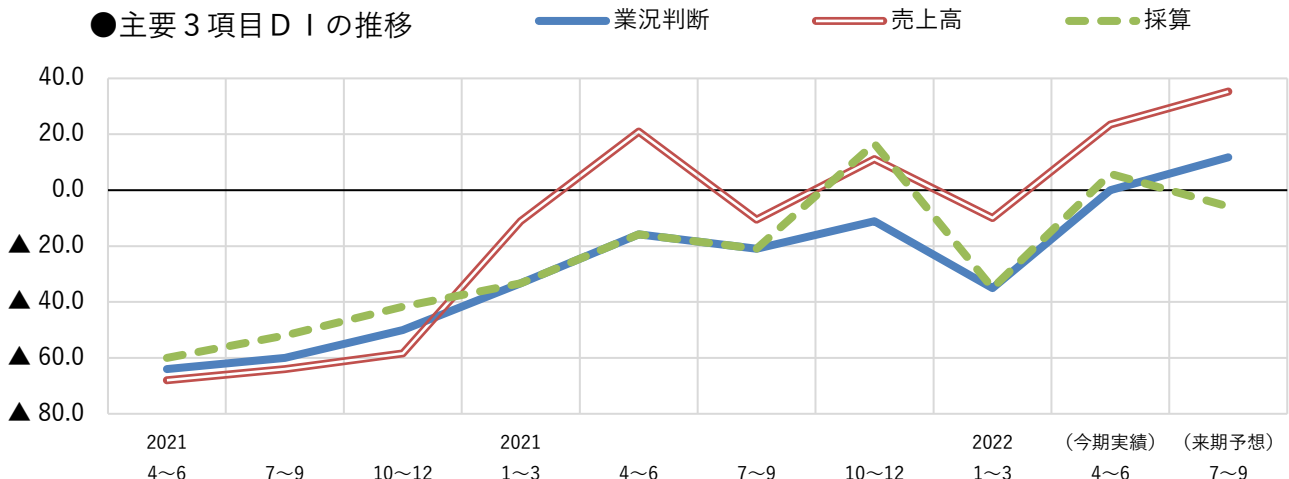


今期の採算DIは5.9で、前年同期と比べ21.7ポイント上昇し、プラスに転じました。

来期は、採算がマイナスに転じると予想しています。



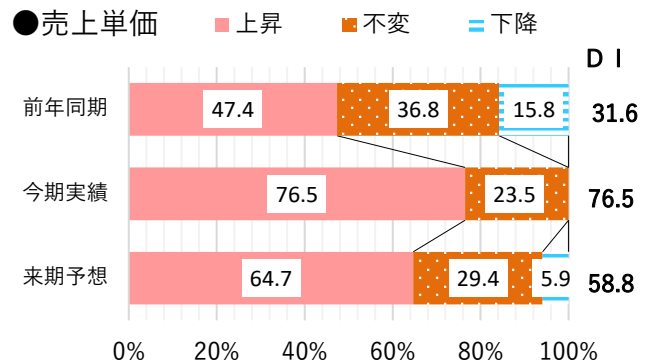
●主要3項目DIの推移



## 売上単価、商品仕入単価

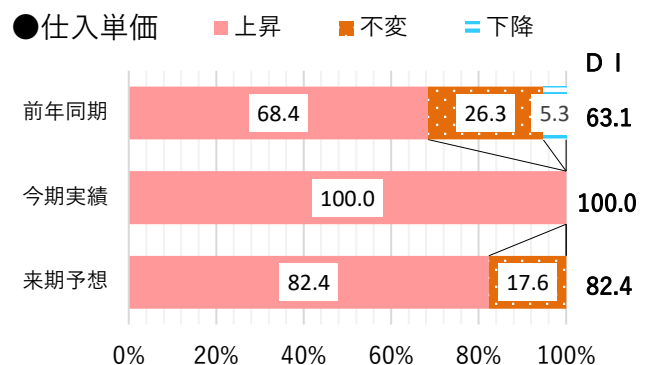
今期の売上単価DIは76.5で、前年同期と比べ44.9ポイントと大幅に上昇しました。

来期は、売上単価の上昇傾向が弱まると予想しています。



今期の仕入単価DIは100.0で、前年同期と比べ36.9ポイントと大幅に上昇しました。

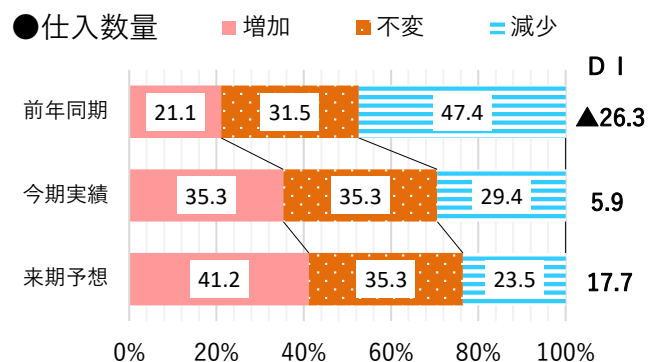
来期は、仕入単価の上昇傾向が弱まると予想しています。



## 商品仕入数量、商品在庫数量

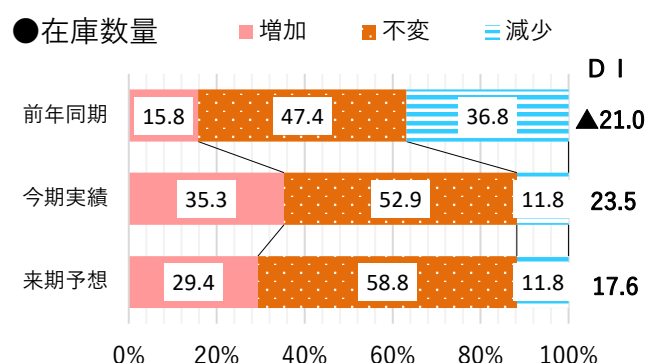
今期の仕入数量DIは5.9で、前年同期と比べ32.2ポイントと大幅に上昇し、プラスに転じました。

来期は、仕入数量の増加傾向が強まると予想しています。



今期の在庫数量DIは23.5で、前年同期と比べ44.5ポイントと大幅に上昇し、プラスに転じました。

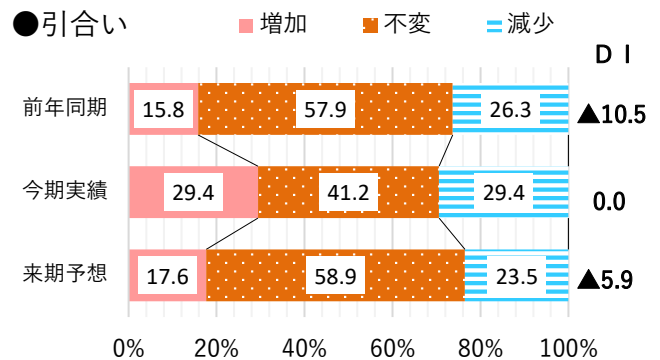
来期は、在庫数量の増加傾向が弱まると予想しています。



## 引合い

今期の引合いDIは0.0で、前年同期と比べ10.5ポイント上昇しました。

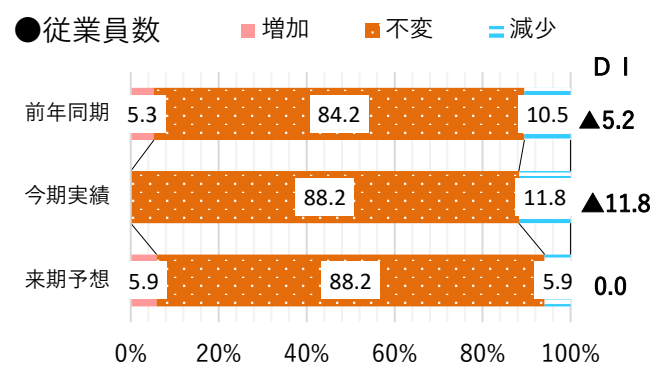
来期は、引合いがマイナスに転じると予想しています。



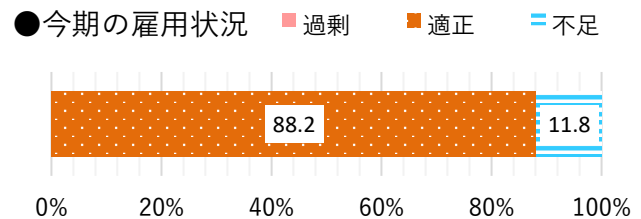
## 従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは▲11.8で、前年同期と比べ6.6ポイント低下しました。

来期は、従業員数の減少傾向が弱まると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業はなく、適正であると回答した企業の割合は88.2%、不足していると回答した企業の割合は11.8%でした。



従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答で、卸売業全体の88.2%を占めています。

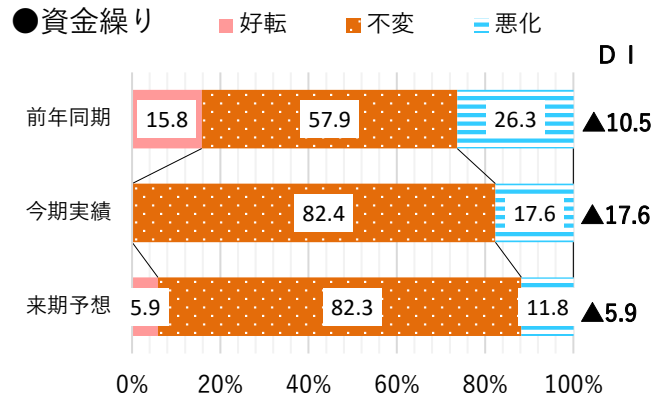
次いで多かったのは「従業員数は前年同期比で減少し、不足している」という回答でした。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	0
	不足	0
不変だった	過剰	0
	適正	15
	不足	0
減少した	過剰	0
	適正	0
	不足	2

## 資金繰り、設備投資

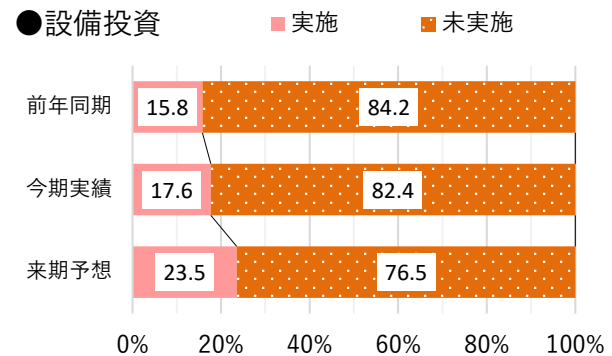
今期の資金繰りDIは▲17.6で、前年同期と比べ7.1ポイント低下しました。

来期は、資金繰りの悪化傾向が弱まると予想しています。



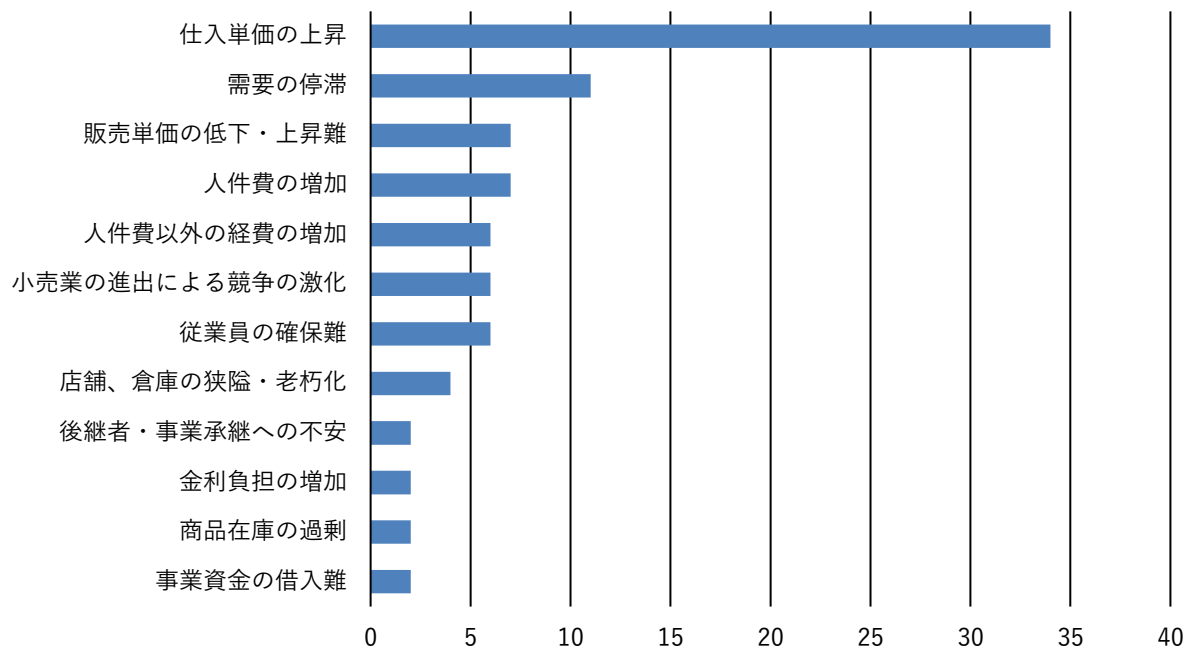
設備投資を実施した企業の割合は17.6%で、前年同期と比べ1.8%増加しました。投資内容は1位が「車両運搬具」、2位が「倉庫」でした。

来期に設備投資を計画している企業の割合は23.5%で、増加を予想しています。



## 経営上の問題点

今期直面している経営上の課題は1位が「仕入単価の上昇」、2位が「需要の停滞」、3位が「販売単価の低下・上昇難」、「人件費の増加」（同位）の順です。



## 企業の声

## [今期の業況について]

- 原油価格が上昇したため、販売価格を引き上げたが、転嫁しきれていない。(石油卸売)
- 雪害による改修工事が例年より多く、引合いが来ているが、小さな仕事が多い。資材の仕入価格の断続的な上昇を受け、各種品目を値上げした。(建築材料卸売)
- セメント、生コン、鋼材、骨材等各種製品が値上がりし、対応に追われている。(建築材料卸売)
- 半導体不足で自動車が減産となり、売上が減少した。コロナ禍の早期終息を願う。(自動車部品卸売)
- 売上単価の上昇により販売数量は減少したが、売上は増加した。ただし、仕入価格の上昇分を完全に転嫁できている訳ではないので、喜べる状況ではない。(鉱物・金属材料卸売)
- 多少人出が増えたが、小売店および飲食店の客足も今一つ伸びておらず、厳しい状況にある。仕入価格の大幅な上昇が続き、先が見えず、対策できていないことが業績の低迷を招いている。(飲食・飲料卸売)
- 原油価格の高騰を受け、各メーカーの値上げが続いているが、価格転嫁ができていない。(包装資材)
- 仕入単価が上昇傾向にあるが、価格転嫁は比較的できているため、売上は増えている。(塗料販売)

## [来期の業況について]

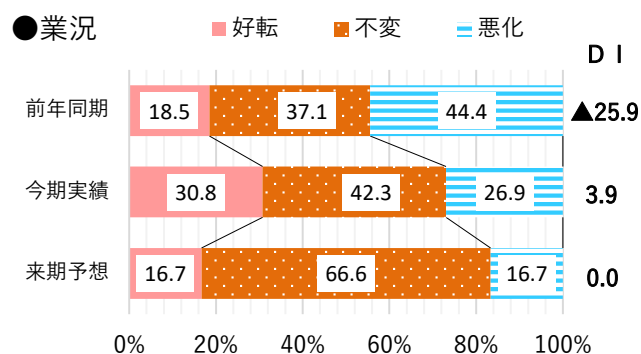
- 原油価格の安定を予測する。(石油卸売)
- 断続的な仕入価格の上昇に加え、一部品目の欠品や納期の遅れが生じているため、今後の工事が予定通り進むのか心配している。(建築材料)
- 全ての資材が値上がりする状況が続くと思われる。(建築材料)
- 販売単価がさらに上昇するが、その分販売量も減少し、苦戦すると思われる。(鉱物・金属材料卸売)
- ウクライナ侵攻と円安が続く限り、仕入単価は上昇する。今後も価格転嫁できるか不安だ。(塗料販売)

# 小 売 業

## 業況、売上、採算

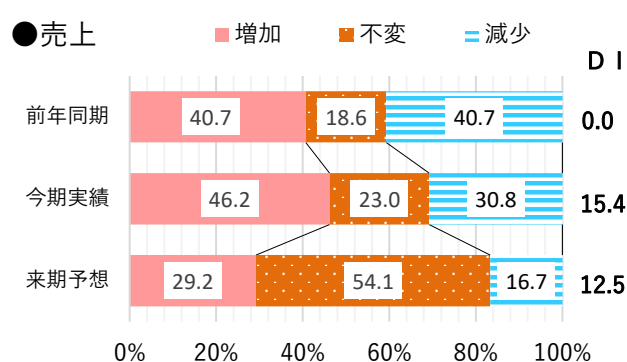
今期(2022.4~6)の業況判断DIは3.9で、前年同期(2021.4~6)と比べ29.8ポイント上昇しプラスに転じました。

来期(2022.7~9)は、業況の好転傾向が弱まると予想しています。



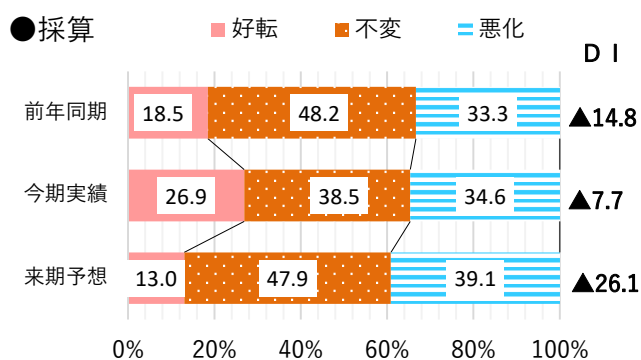
今期の売上高DIは15.4で、前年同期と比べ15.4ポイント上昇し、プラスに転じました。

来期は、売上の増加傾向が続くと予想しています。

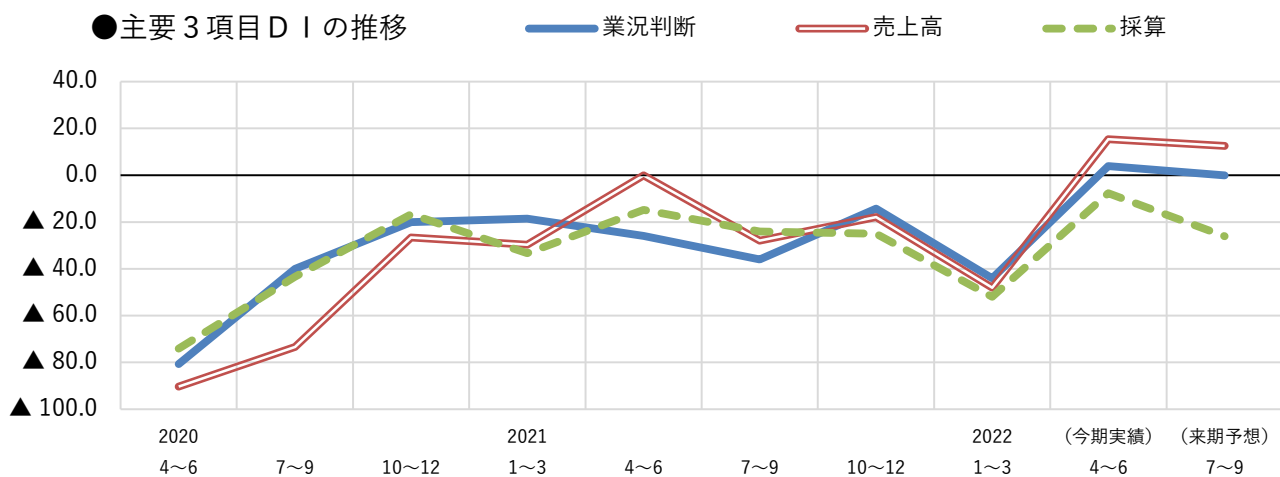


今期の採算DIは▲7.7で、前年同期と比べ7.1ポイント上昇しました。

来期は、採算の悪化傾向が強まると予想しています。



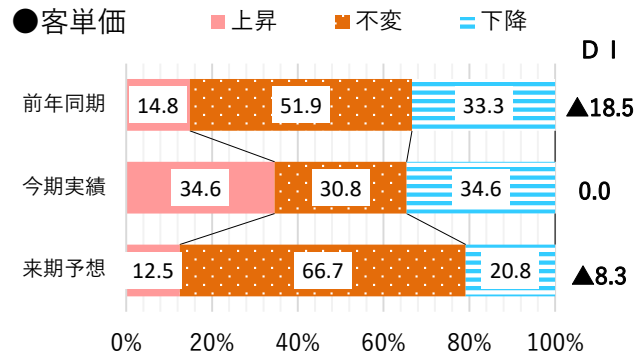
●主要3項目DIの推移



客単価、客数

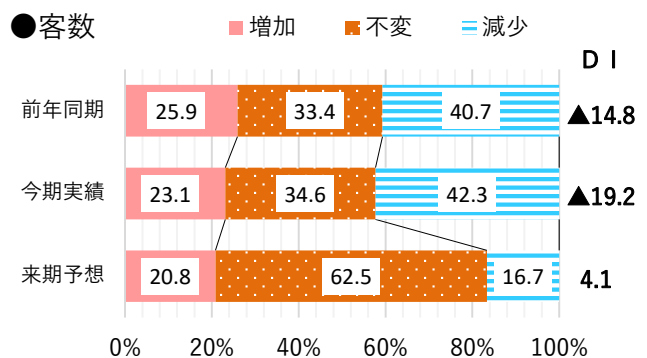
今期の客単価DIは▲0.0で、前年同期と比べ18.5ポイント上昇しました。

来期は、客単価がマイナスに転じると予想しています。



今期の客数DIは▲19.2で、前年同期と比べ4.4ポイント低下しました。

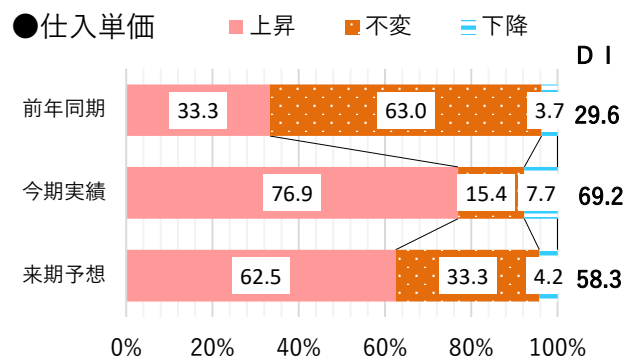
来期は、客数がプラスに転じると予想しています。



商品仕入単価、商品仕入額、商品在庫数

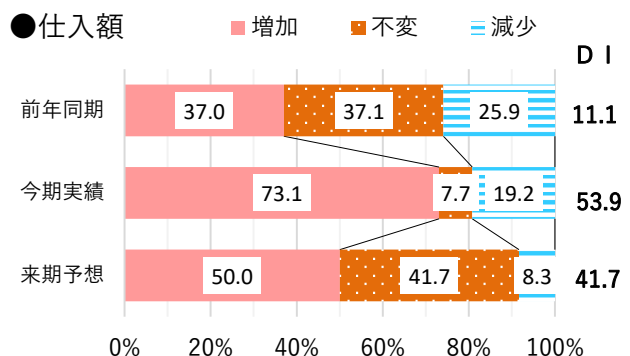
今期の仕入単価DIは69.2で、前年同期と比べ39.6ポイントと大幅に上昇しました。

来期は、仕入単価の上昇傾向が続くと予想しています。



今期の仕入額DIは53.9で、前年同期と比べ42.8ポイントと大幅に上昇しました。

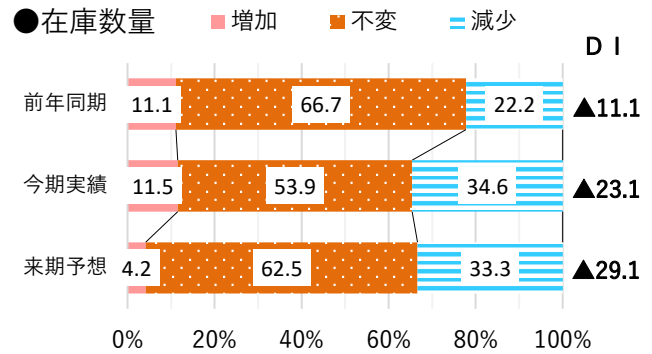
来期は、仕入額の増加傾向が続くと予想しています。





今期の在庫数量DIは▲23.1で、前年同期と比べ12.0ポイント低下しました。

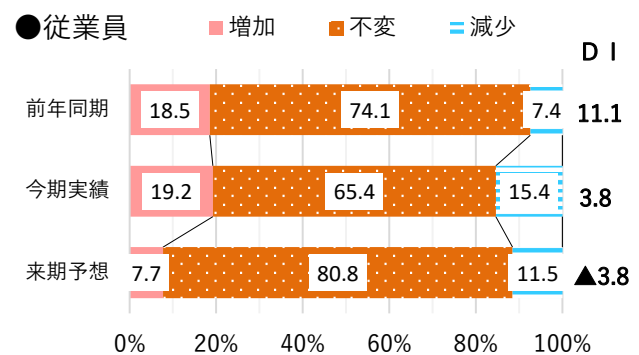
来期は、在庫数量の減少傾向が続くと予想しています。



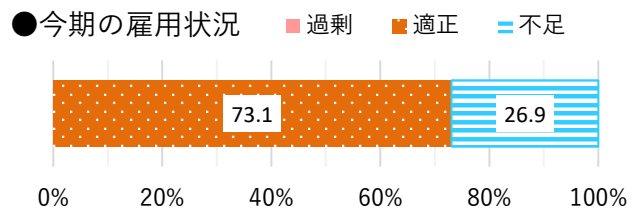
## 従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは3.8で、前年同期と比べ7.3ポイント低下しました。

来期は、従業員数がマイナスに転じると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業はなく、適正であると回答した企業の割合は73.1%、不足していると回答した企業の割合は26.9%でした。



従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答で、小売業全体の50.0%を占めています。

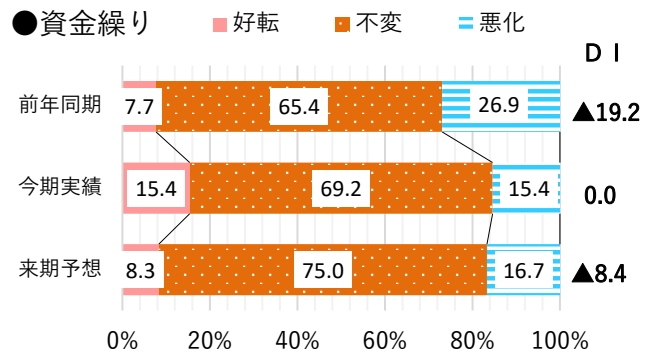
次いで多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、不足している」という回答でした。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	3
	不足	2
不変だった	過剰	0
	適正	13
	不足	4
減少した	過剰	0
	適正	3
	不足	1

資金繰り、設備投資

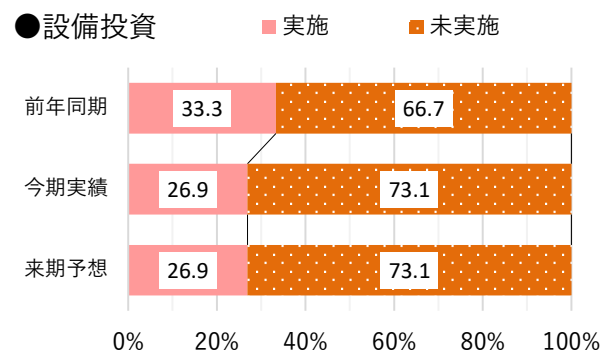
今期の資金繰りDIは0.0で、前年同期と比べ19.2ポイント上昇しました。

来期は、資金繰りがマイナスに転じると予想しています。



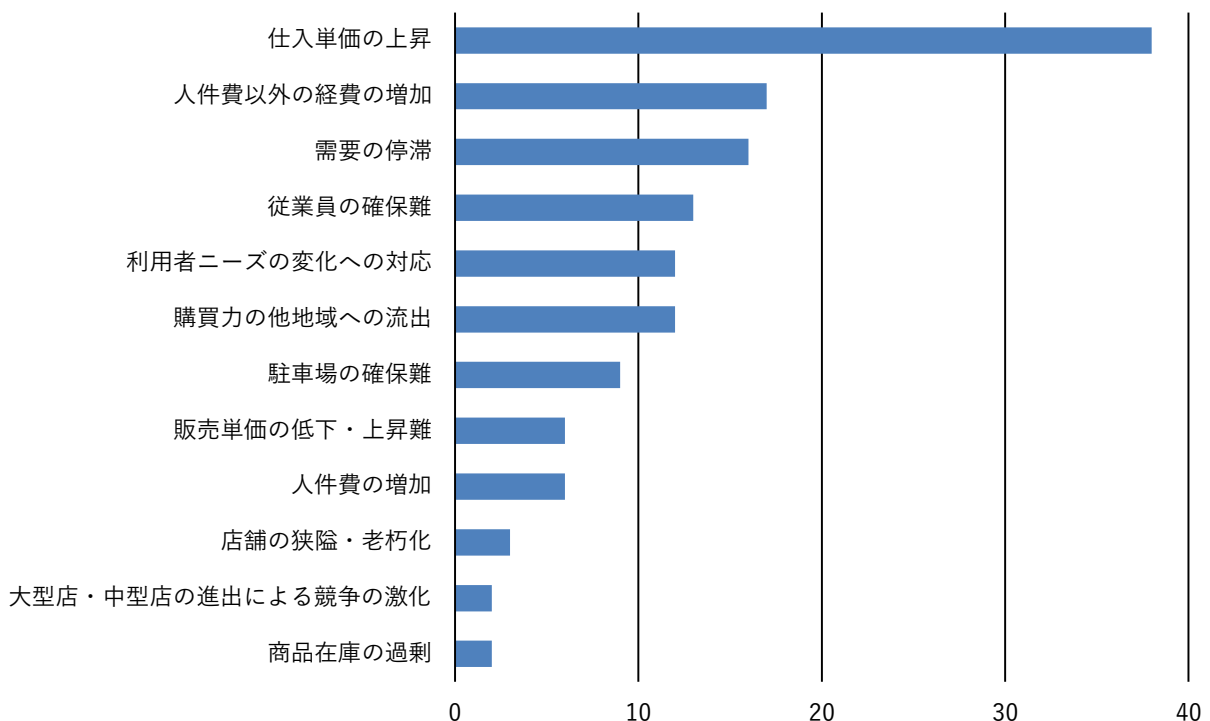
設備投資を実施した企業の割合は26.9%で、前年同期と比べ6.4%低下しました。投資内容は1位が「店舗」、2位が「付帯施設」の順です。

来期に設備投資を計画している企業の割合は26.9%で、横ばいを予想しています。



経営上の問題点

今期直面している経営上の課題は、1位が「仕入単価の上昇」、2位が「人件費以外の経費の増加」、3位が「需要の停滞」の順です。



## 企業の声

## [今期の業況について]

- コロナ禍の影響が弱まっており、観光関連産業や飲食店への納入量が回復傾向にある。観光客の来店や購買も増えている。(食料品小売)
- オンライン販売の売上が少しずつ伸びているため、さらに力を入れていきたい。(菓子製造小売)
- 原材料、包装資材、石油の値上げが利益を圧縮しており、厳しい状況にある。(菓子製造小売)
- 新型コロナウイルス感染者数の増加で、4月の対前年同月比の売上は大幅なマイナスだったが、5～6月はプラスだった。(衣服・身の回り品小売)
- 連休明けから売上が減少した。(衣服・身の回り品小売)
- 新車の納期遅れにより、受注があっても売上が立たない。欲しい時に希望の車が手に入らないため、顧客は中古車を探す傾向にある。新車は在庫が少なく高値になっている。(自動車小売)
- 在庫の確保が困難だが、仕入ルートを開拓し、車を調達したことで売上が増加した。(自動車小売)
- 前期にオーダー済みの車両が納車され、売上が上がった。(自動車小売)
- 新車販売額が対前年同期比で3割減った。(自動車小売)
- 仕入単価が上昇し、採算等が悪化した。(自動車小売)
- 原油価格が上昇したため、ガソリン等の価格も高騰している。(燃料小売)
- 売上が増加した。行動制限が解除され、まちに活気が戻ったことや、昨年のような猛暑に備えてのエアコン需要の伸長、原油価格の高騰を受け、石油燃料から電気をエネルギーとする製品へのシフトが進んでいることが好転の理由だと思う。(家電量販店)
- 自宅で過ごす人が多く、猛暑への備えとして昨年よりもエアコンの需要が増えている。(家電量販店)
- 商品単価が上昇したため、売上を確保できている。新型コロナウイルスの流行が落ち着きつつあり、外食や旅行に出かける層が増えたと思う。(大型店)
- コロナ禍が落ち着きつつあるため、外出や観光へのニーズが高まり、客数や売上が上昇した。(大型店)
- 5～6月にかけて、前年同期比の売上が若干のプラスだった。(大型店)
- 売上は前年同期比98%で、ゴールデンウィークの売上は伸び悩んだ。(コンビニ)
- 5～6月上旬の気温が低かったため、農作物への影響が懸念される。(コンビニ)
- 商品仕入単価の上昇が懸念される。(ドラッグストア)
- 売上は前年同期比で3%程減少した。(ホームセンター)

## [来期の業況について]

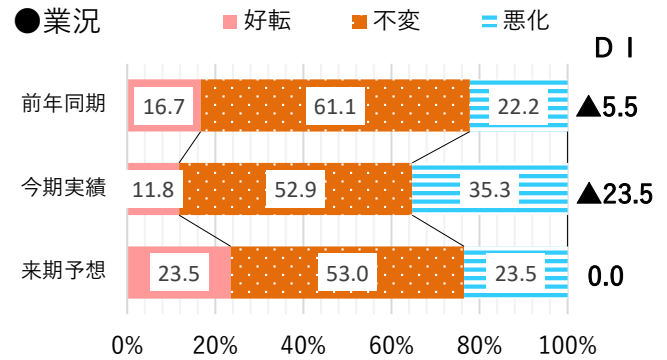
- 新しい設備の導入を計画しており、売上の増加と効率向上を期待する。(食料品小売)
- 秋に小麦が値上げされるが、完全な価格転嫁は難しいので、悩ましい状況が続く。(菓子製造小売)
- 仕入額が上昇し続けており、価格転嫁を考えなければいけない。卸販売もしているので、価格交渉はスムーズに進んでほしい。(菓子製造小売)
- 新型コロナウイルスが落ち着き、売上の回復が期待できるが、仕入単価の上昇と物流コストの増加で利益は減少すると思われる。(衣服・身の回り品小売)
- 低価格品が販売の主流となると思われる。(衣服・身の回り品小売)
- 戦争の影響で仕入価格が上昇したが、販売価格への転嫁が難しい。(印鑑小売)
- 部品の供給不足が改善する見込みは薄く、数年は続くと思われる。(自動車小売)
- 新車の納期遅れが続くと思われる。(自動車小売)
- 石油燃料を使う製品から電力を使う製品へのシフトが進むと思う。売上は増加を見込む。(家電量販店)
- 商品在庫が僅少だったが、中国のロックダウン解除により在庫状況の改善が見込める。(家電量販店)
- 新型コロナウイルスの影響は徐々に薄れていくと思う。インバウンドの回復にも期待している。市内路線バスの減便の影響は大きく、客数の増加は難しいと思う。(大型店)
- 仕入価格の高騰が売上にどう影響するか不安に感じている。(大型店)
- 今期同様、外出や観光へのニーズが高水準で推移することで、好転すると思われる。(大型店)
- 政府は2025年までに最低賃金を1,000円まで引き上げる方針を示しているが、パート比率が高い業種にとって大きな負担となる。物価の上昇傾向もあり、不安を感じている。(コンビニ)

# 運輸・倉庫業

## 業況、売上、採算

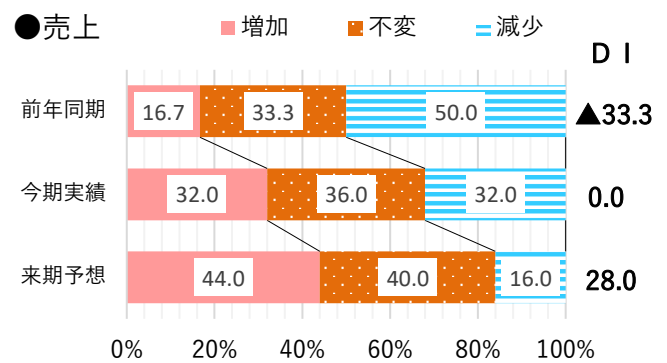
今期（2022.4～6）の業況判断DIは▲23.5で、前年同期（2021.4～6）と比べ18.0ポイント低下しました。

来期（2022.7～9）は、業況の悪化傾向が弱まると予想しています。



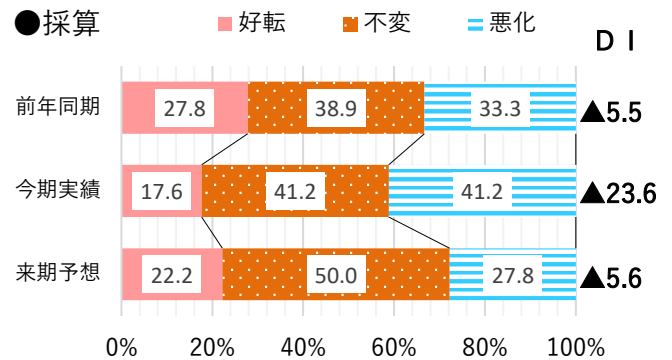
今期の売上高DIは0.0で、前年同期と比べ33.3ポイントと大幅に上昇しました。

来期は、売上がプラスに転じると予想しています。

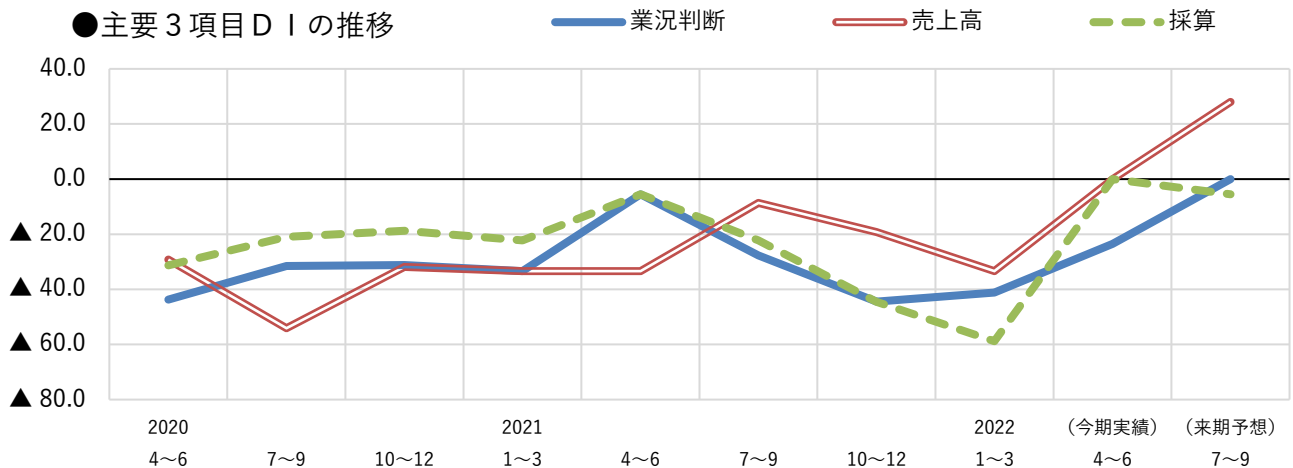


今期の採算DIは▲23.6で、前年同期と比べ18.1ポイント低下しました。

来期は、採算の悪化傾向が弱まると予想しています。



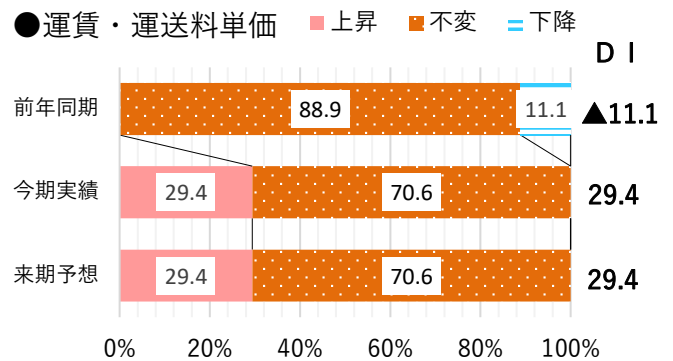
### ●主要3項目DIの推移



運賃・運送料単価、保管料単価

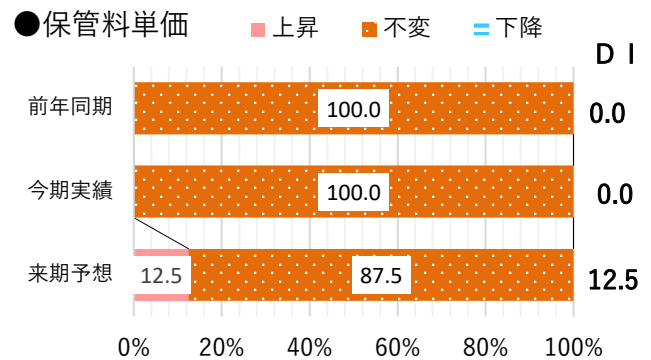
今期の運賃・運送料単価DIは29.4で、前年同期と比べ40.5ポイントと大幅に上昇し、プラスに転じました。

来期は、運賃・運送料単価の横ばいを予想しています。



今期の保管料単価DIは0.0で、前年同期と比べ横ばいでした。

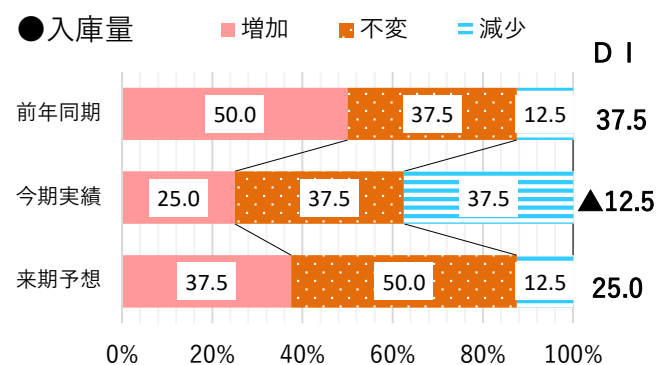
来期は、保管料単価がプラスに転じると予想しています。



入庫量、出庫量、保管残高

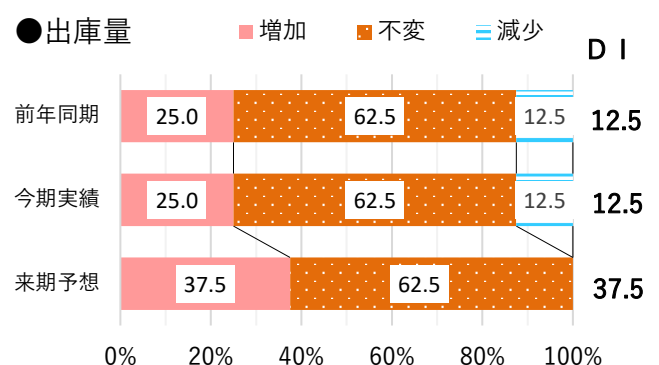
今期の入庫量DIは▲12.5で、前年同期と比べ50.0ポイントと大幅に低下し、マイナスに転じました。

来期は、入庫量が大幅に増加し、プラスに転じると予想しています。



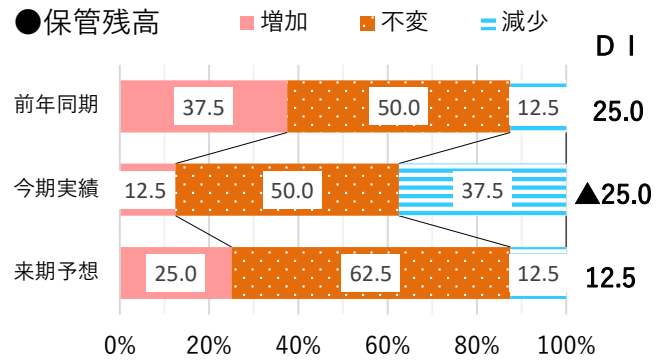
今期の出庫量DIは▲12.5で、前年同期と比べ横ばいとなりました。

来期は、出庫量の増加傾向が強まると予想しています。



今期の保管残高DIは▲25.0で、前年同期と比べ50.0ポイントと大幅に低下し、マイナスに転じました。

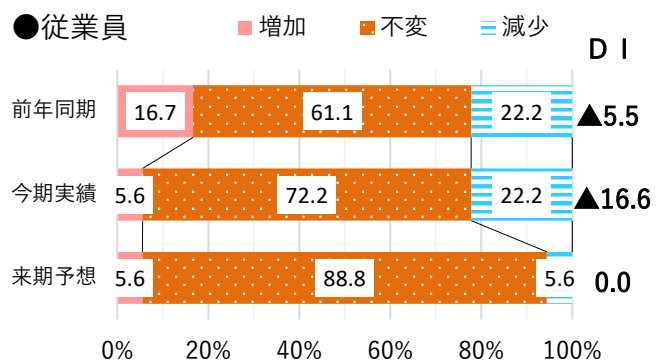
来期は、保管残高が大幅に増加し、プラスに転じると予想しています。



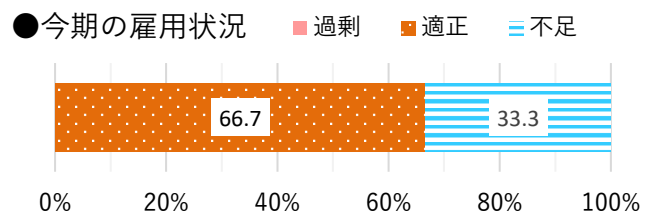
### 従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは▲16.6で、前年同期と比べ11.1ポイント低下しました。

来期は、従業員の減少傾向が弱まると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業はなく、適正であると回答した企業の割合は66.7%、不足していると回答した企業の割合は33.3%でした。



従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答で、運輸・倉庫業全体の50.0%を占めています。

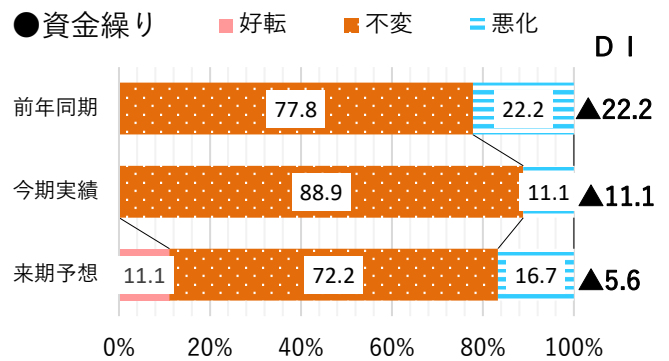
次いで多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、不足している」という回答でした。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	1
	不足	0
不変だった	過剰	0
	適正	9
	不足	4
減少した	過剰	0
	適正	2
	不足	2

資金繰り、設備投資

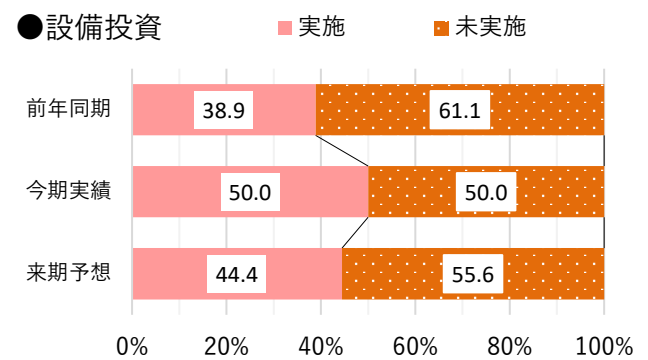
今期の資金繰りDIは▲11.1で、前年同期と比べ11.1ポイント上昇しました。

来期は、資金繰りに大きな変化はないと予想しています。



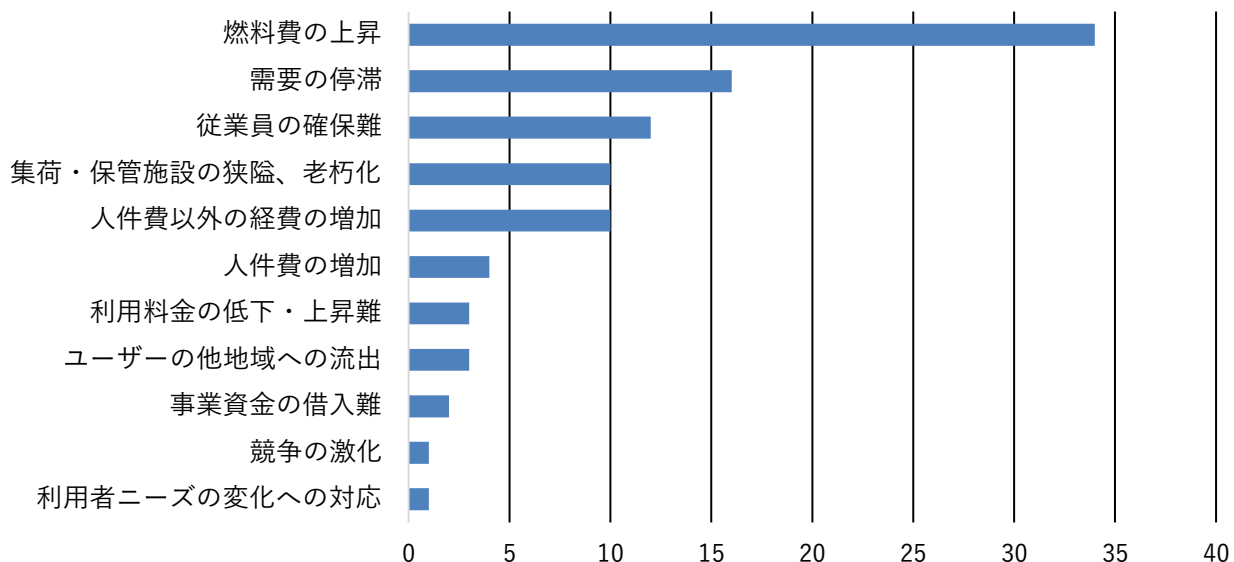
設備投資を実施した企業の割合は50.0%で、前年同期と比べ11.1ポイント上昇しました。投資内容は、1位が「輸送機材」、2位が「建物」、「O A 機器」、「その他」（同位）の順です。

来期に設備投資を計画している企業の割合は44.4%で、増加を予想しています。



経営上の問題点

今期直面した経営上の問題点は、1位が「燃料費の上昇」、2位が「需要の停滞」、3位が「従業員の確保難」の順です。



## 企業の声

## [今期の業況について]

- 貨物運送、倉庫ともに売上は前年と変わらなかった。人材が不足している。(道路貨物運送)
- 燃料費が高騰している。運賃を値上げしたいが、荷主の同意を得られない。(道路貨物運送)
- 燃料費と人件費の増加により、業況は悪化した。(道路貨物運送)
- 燃料価格は落ち着いてきた。(道路貨物運送)
- 新型コロナウイルス関係の規制は緩和されたが、売上等はコロナ過前の水準まで回復できていない。燃料費の高騰も負担だ。(道路旅客運送)
- 運賃を引き上げたが、燃料費と資材価格の高騰で業況は好転しなかった。(道路旅客運送)
- 入庫量の減少に伴い、売上も減少した。(倉庫)
- 上海のロックダウンによる輸入貨物の減少や、ロシア関連貨物の先行きが不透明な状況、燃料等の値上げの影響で荷動きが全般的に良くない。(港湾運送)
- 3年ぶりにコロナ規制のないゴールデンウィークだったため、コロナ禍前の水準までは戻らないまでも、旅客は増加した。船体の定期検査が長引いたことで運行便数が減少し、貨物は減少となった。また、燃料費が高騰しており、採算が悪化した。(水運)

## [来期の業況について]

- 荷主に対する運送料の値上げ交渉により、売上の増加を見込む。(道路貨物運送)
- 燃料費等の高騰は続くが、観光客が増加し、イベントが開催されれば多少好転する。(道路旅客運送)
- 昨年同期比で30%程売上の増加を見込むが、採算は厳しいと思う。(道路旅客運送)
- 売上は徐々に回復に向かうと思われる。(道路旅客運送)
- さらなる入庫量の減少が懸念される。(倉庫)
- 運行計画、航海数は減少を見込むが、新型コロナウイルス陽性患者数が減少し、規制がなければ旅客は増加する。ロシアによるウクライナ侵攻と円安の影響で、燃料費の高騰が懸念される。農畜産物の収穫繁忙期を迎えるので、輸送量の増加に期待している。(水運)



# 観光業

## 業況、売上、採算

今期（2022.4～6）の業況判断DIは42.0で、前年同期(2021.4～6)と比べ105.9ポイントと大幅に上昇し、プラスに転じました。

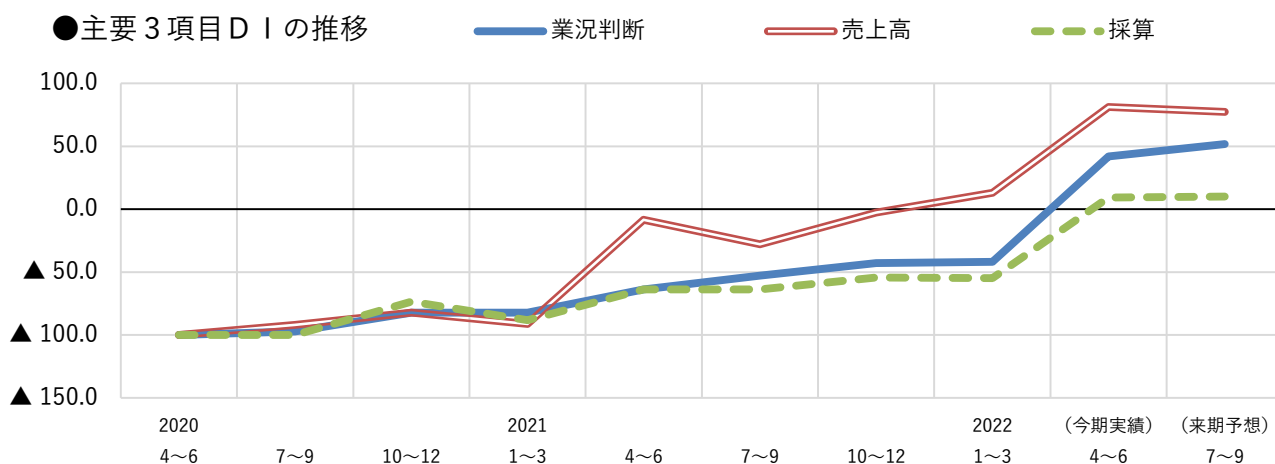
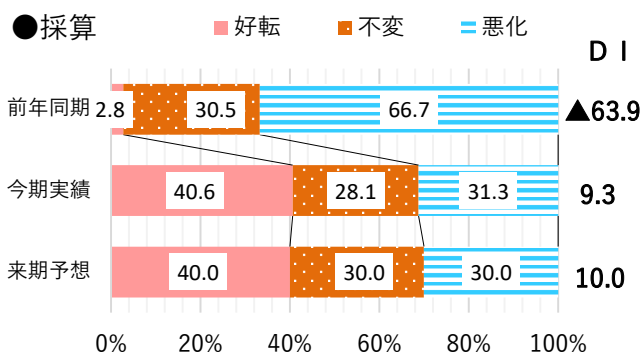
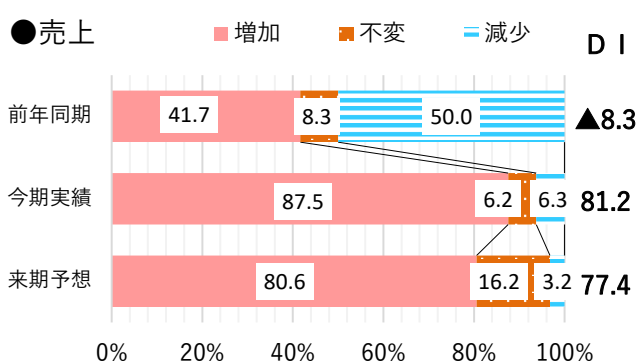
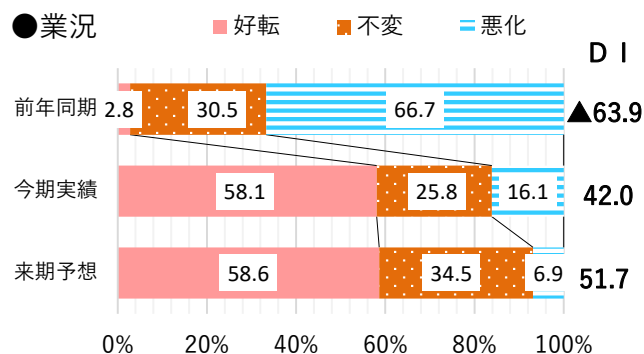
来期（2022.7～9）は、業況の好転傾向が続くと予想しています。

今期の売上DIは81.2で、前年同期と比べ89.5ポイントと大幅に上昇し、プラスに転じました。

来期は、売上の増加傾向が続くと予想しています。

今期の採算DIは9.3で、前年同期と比べ73.2ポイントと大幅に上昇し、プラスに転じました。

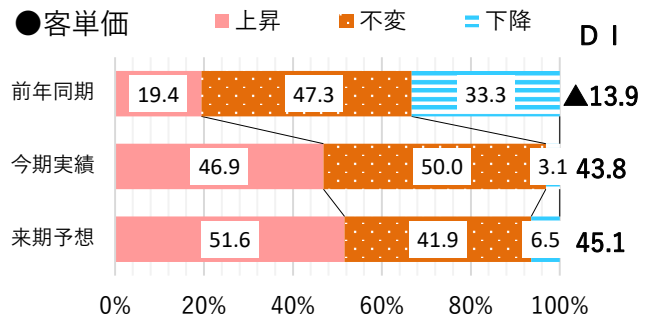
来期は、採算に大きな変化はないと予想しています。



客単価、利用客数、日本人客数、外国人客数

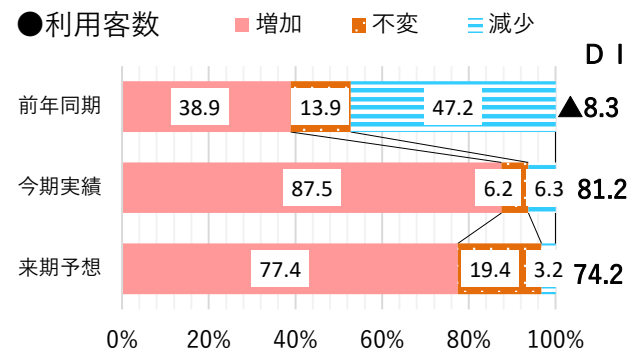
今期の客単価DIは43.8で、前年同期と比べ57.7ポイントと大幅に上昇し、プラスに転じました。

来期は、客単価の上昇傾向が強まると予想しています。



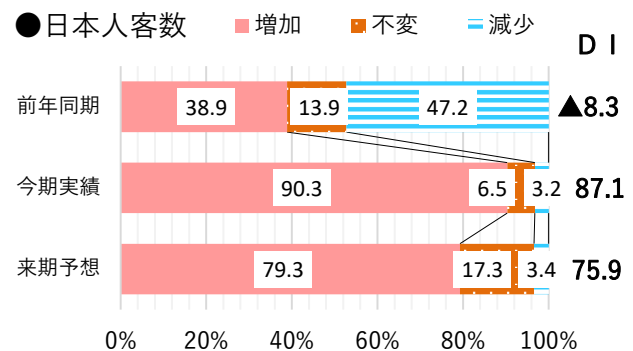
今期の利用客数DIは81.2で、前年同期と比べ89.5ポイントと大幅に上昇し、プラスに転じました。

来期は、利用客数の増加傾向が続くと予想しています。



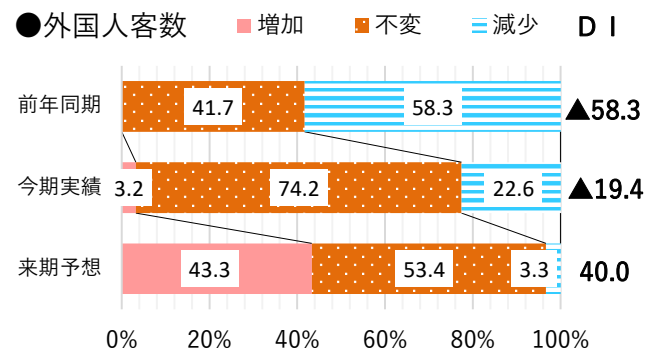
今期の日本人客数DIは87.1で、前年同期と比べ95.4ポイントと大幅に上昇し、プラスに転じました。

来期は、日本人客数の増加傾向が続くと予想しています。



今期の外国人客数DIは▲19.4で、前年同期と比べ38.9ポイントと大幅に上昇しました。

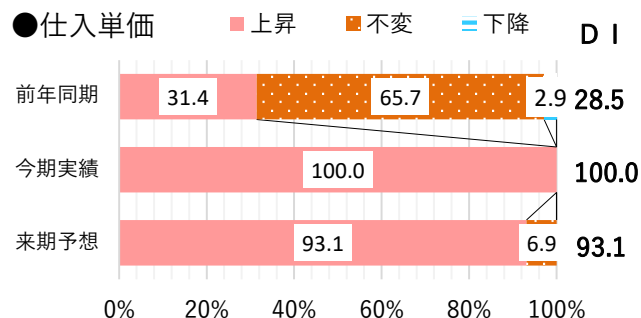
来期は、外国人客数が大幅に増加し、プラスに転じると予想しています。



## 仕入単価

今期の仕入単価DIは100.0で、前年同期と比べ71.5ポイントと大幅に上昇しました。

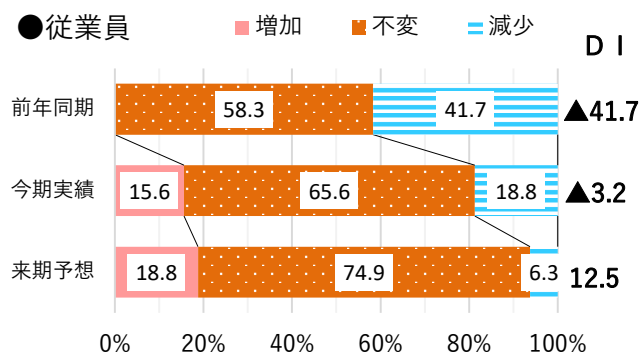
来期は、仕入単価の上昇傾向が続くと予想しています。



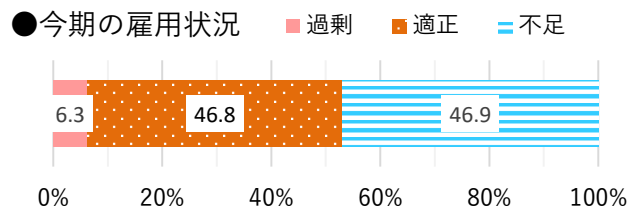
## 従業員、今期の雇用状況

今期の従業員数DIは▲3.2で、前年同期と比べ38.5ポイントと大幅に上昇しました。

来期は、従業員数がプラスに転じると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業の割合は6.3%、適正であると回答した企業の割合は46.8%、不足していると回答した企業の割合は46.9%でした。



従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答で、観光業全体の37.5%を占めています。

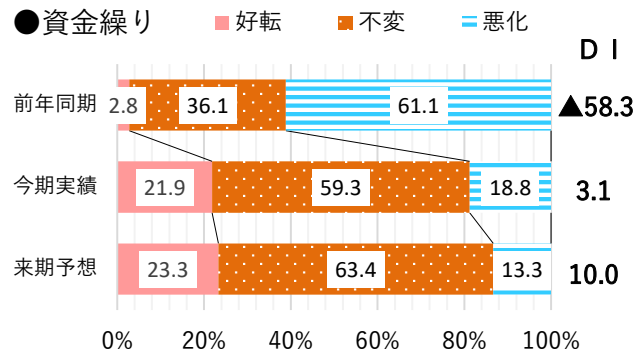
次いで多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、不足している」という回答でした。

従業員数変化	雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	2
	不足	3
不変だった	過剰	2
	適正	12
	不足	7
減少した	過剰	0
	適正	1
	不足	5

## 資金繰り、設備投資

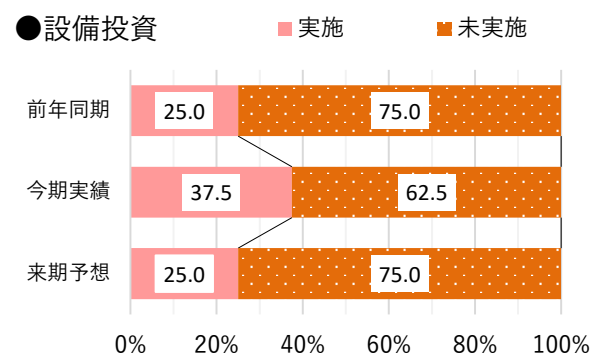
今期の資金繰りDIは3.1で、前年同期と比べ61.4ポイントと大幅に上昇し、プラスに転じました。

来期は、資金繰りの好転傾向が続くと予想しています。



設備投資を実施した企業の割合は37.5%で、前年同期と比べて12.5%増加しました。投資内容は、1位が「サービス設備」、2位が「OA機器」の順です。

来期に設備投資を計画している企業の割合は25.0%で、減少を予想しています。

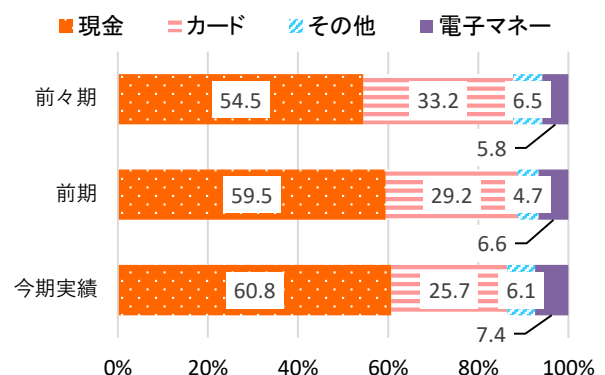


## 今期利用客の決済方法

今期利用客の決済方法の割合は、1位が現金で60.8%、2位がカードで25.7%、3位が電子マネーで7.4%、4位がその他で6.1%となりました。

その他として挙げられた具体的な決済方法は、旅行代理店からの振り込み、クーポン券、GoToイートの食事券、掛売りです。

●今期利用客の決済方法(%)

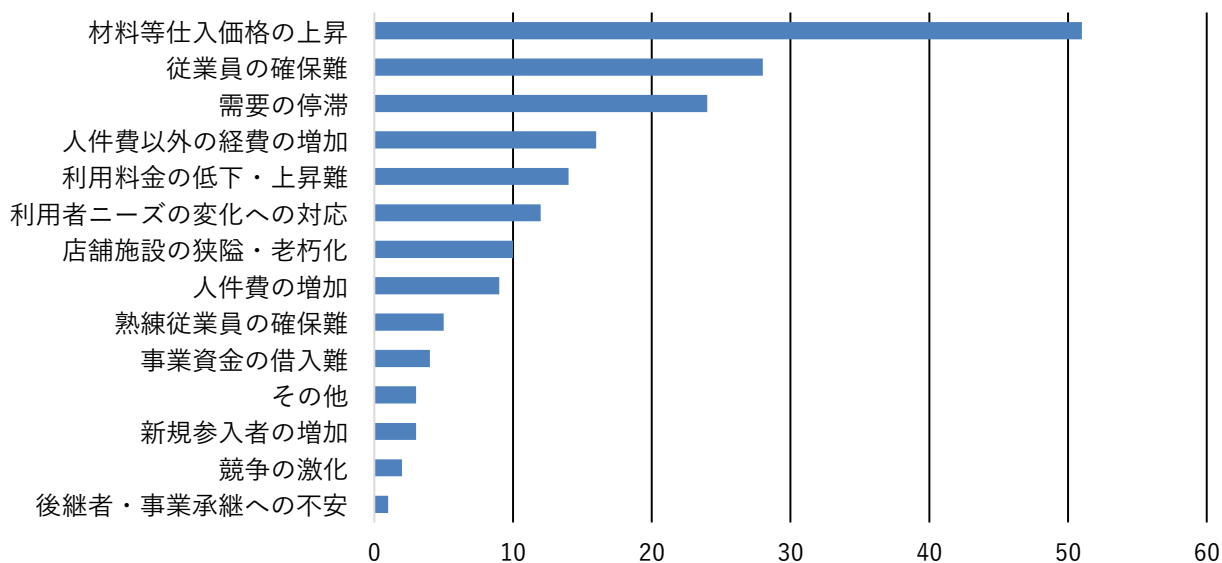


## 客室稼働率

今期調査で回答があった、宿泊業の平均客室稼働率は51.7%でした。

## 経営上の問題点

今期直面している経営上の問題点は、1位が「材料等仕入価格の上昇」、2位が「従業員の確保難」、3位が「需要の停滞」の順です。



## 企業の声

[今期の業況について]

- 業績はやや好転した。宿泊、飲食ともに客数は増加傾向にあるが、団体旅行や宴会での利用はなく、完全な回復には時間がかかる。(ホテル)
- 規制緩和による人流の増加や、新しい宿泊プランを導入したことで売り上げが増加した。(ホテル)
- 仕入価格が上昇した。調理人を中心に人材が不足している。(ホテル)
- 原材料費、水道光熱費が増加した。(ホテル)
- 仕入価格や光熱費が高騰した。消耗品や備品の品切れが生じている。(コテージ・ペンション)
- 行動制限等がなくなり、個人旅行客やツアー客の利用が増えたことで売上は増加しているが、原材料費が高騰しており、厳しい状況に変わりはない。(飲食)
- 仕入価格の上昇分を販売価格に転嫁できない。(飲食)
- 高齢者や修学旅行客の利用が増加している。(飲食)
- 仕入価格が全体的に高騰している。(飲食)
- 前年より客数は増えたが、コロナ禍前の水準には届かない。借入金の返済が始まり、資金繰りは厳しい。従業員を募集しても応募がない。来期はG o T oキャンペーンの再開や、外国人観光客の増加につながる取り組みに期待したい。(土産品)
- 国内観光客の増加により、客数と売上は前年実績比で増加したがコロナ禍前の水準には戻っていない。外国人観光客が回復するまでは、業況の回復は見込めない。(土産品)
- インバウンドは増えていない。消費額の大きい中国人観光客が増えないと厳しい状況が続く。(土産品)
- 少しずつ人出は増えているようだが、売上はコロナ禍前の50%にも届かない。(土産品)
- 業況好転の兆しが見えてきた。観光客は少しずつ増加している。(土産品)
- 原材料費等の値上げにより、利益率が悪化している。(土産品)
- 日本人客が増えてきている。(土産品)
- 観光客の増加により売上が増加したが、石油の仕入単価も上昇した。(レンタカー)
- まん延防止等重点措置の解除以降、道外客の利用が増加した。(レンタカー)
- 新型コロナウイルスの流行が落ち着き、人流が復活したことで利用者が増加した。(社会教育)

- 臨時休業した前年同期と比べると、客数と売上は約5倍に増加したが、新型コロナウイルス感染拡大前の2019年同期と比べると約6割減少した。(水運業)
- 知床遊覧船事故による風評被害と欠航が多かったことで、観光船事業は伸び悩んだ。安全確保のための救命胴衣の購入費用等が利益を圧迫している。駐車場の売上は相応に伸長した。(船舶賃渡業)
- 外国人観光客数が新型コロナウイルス流行前の状況まで回復するのはまだ先のことで、収入が減少している中で、燃料価格や仕入価格が上昇しているため、厳しい状況だ。(娯楽業)
- 船舶の保管による売上は前年並だったが、他の分野の売上が減少した。(娯楽業)

[来期の業況について]

- GoToキャンペーンに期待する。(ホテル)
- インバウンドが増加すると思う。(ホテル)
- 緩やかに回復すると思われる。(ホテル)
- どうみん割の利用対象者の全国拡大が話題になっているが、価格帯の高い施設を利用する人が増えると思うので、自社の増収にはつながらないだろう。(コテージ・ペンション)
- 外国人観光客が増加すると思うが、日本人観光客が減少するのではないかと不安に感じている。遅くまで営業する店が減少しており、夜の賑わいが戻ってこないのではないかと危惧している。(飲食)
- 売上の増加は間違いないと思うが、人材の定着と原価のコントロールに苦労すると思う。(飲食)
- 仕入価格の上昇が不安だ。(飲食)
- 国内観光客の増加傾向は続くと思われる。原材料費等あらゆる経費が高騰しているが、商品を値上げできる状況にないため、採算は悪化を見込む。(土産品)
- まん延防止等重点措置等が解除され、観光客が増えている気がするので、期待したい。(土産品)
- 消耗品や包装資材の価格が上昇すると思われる。(土産品)
- 円安による訪日客の増加を見込む。(土産品)
- インバウンドの増加に期待する。(土産品)
- 観光客の増加はしばらく続くと思う。インバウンド増加の兆候もあり、期待している。(レンタカー)
- 今期同様、客数の増加を見込む。(レンタカー)
- インバウンドの段階的な増加に伴い、利用者の増加が見込まれる。(社会教育)
- このまま新型コロナウイルスの流行が落ち着けば、売上、客数の増加が期待できる。(水運業)
- 規制緩和によるインバウンドの増加に期待している。(船舶賃渡業)
- 今期と比べ好転すると思うが、厳しい状況は続くだろう。(娯楽業)

# サービス業

## 業況、売上、採算

今期（2022.4～6）の業況判断DIは4.3で、前年同期（2021.4～6）と比べ34.8ポイントと大幅に上昇し、プラスに転じました。

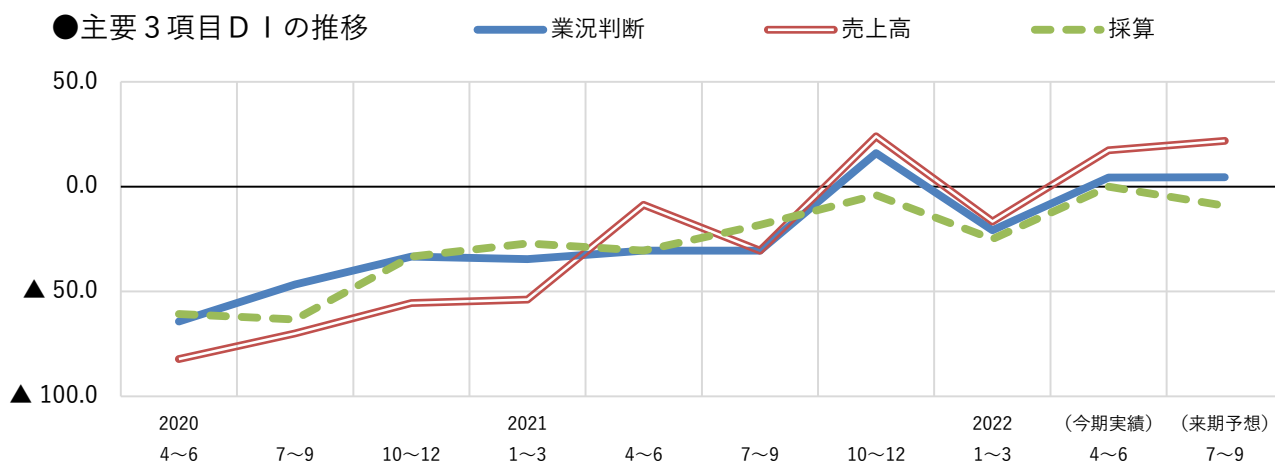
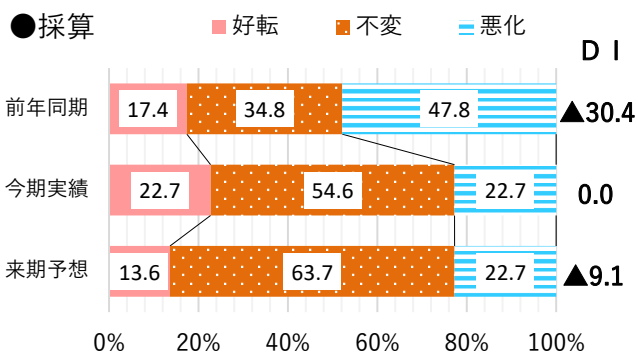
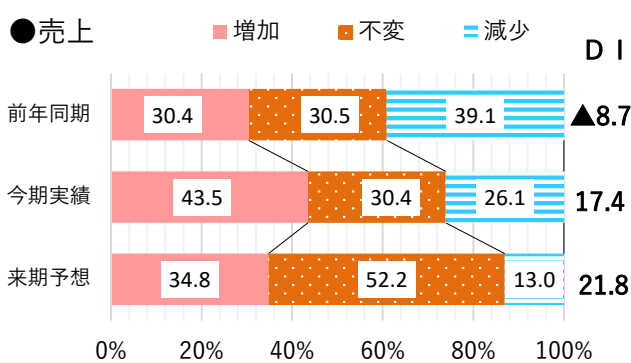
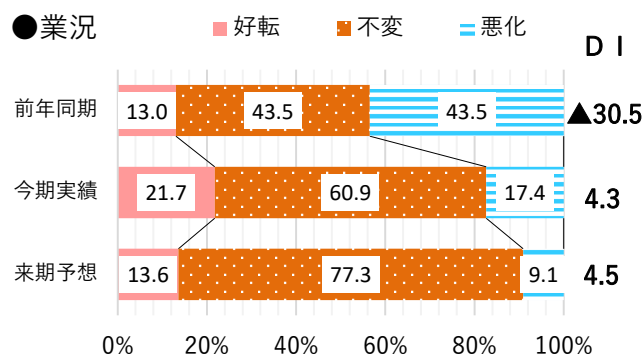
来期（2022.7～9）は、業況に大きな変化はないと予想しています。

今期の売上高DIは▲17.4で、前年同期と比べ26.1ポイント上昇し、プラスに転じました。

来期は、売上に大きな変化はないと予想しています。

今期の採算DIは0.0で、前年同期と比べ30.4ポイントと大幅に上昇しました。

来期は、採算がマイナスに転じると予想しています。



## 客単価、利用客数、仕入単価

今期の客単価DIは▲17.4で、前年同期と比べ40.2ポイントと大幅に上昇し、プラスに転じました。

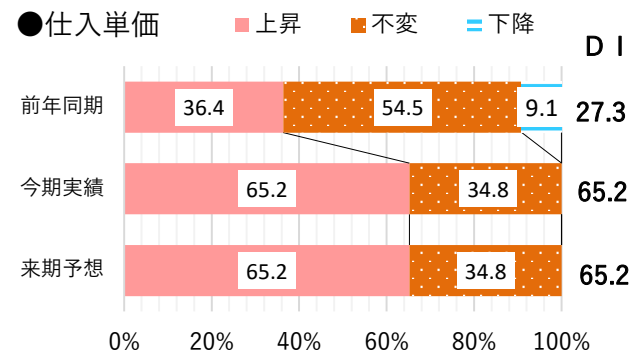
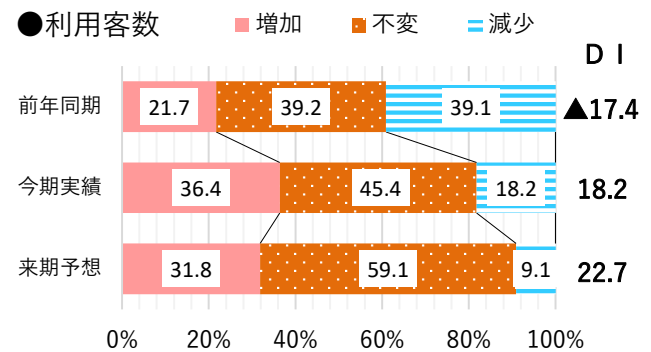
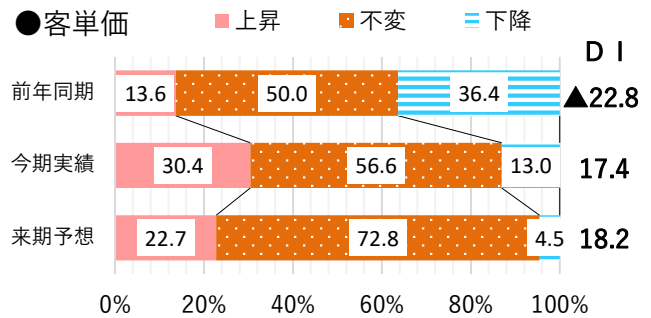
来期は、客単価に大きな変化はないと予想しています。

今期の利用客数DIは▲18.2で、前年同期と比べ35.6ポイントと大幅に上昇し、プラスに転じました。

来期は、利用客数に大きな変化はないと予想しています。

今期の仕入単価DIは65.2で、前年同期と比べ37.9ポイントと大幅に上昇しました。

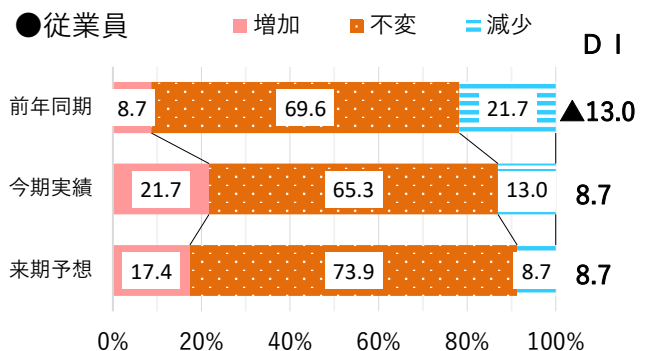
来期は、仕入単価の横ばいを予想しています。



## 従業員、今期の雇用状況

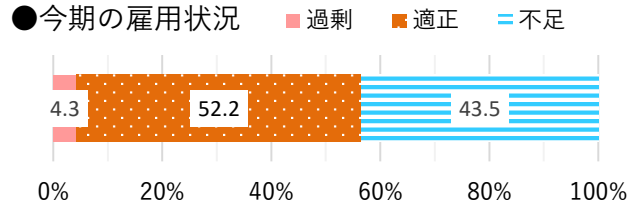
今期の従業員数DIは8.7で、前年同期と比べ21.7ポイント上昇し、プラスに転じました。

来期は、従業員数の横ばいを予想しています。





今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業の割合は4.3%、適正であると回答した企業の割合は52.2%、不足していると回答した企業の割合は43.5%でした。



従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答で、サービス業全体の39.1%を占めています。

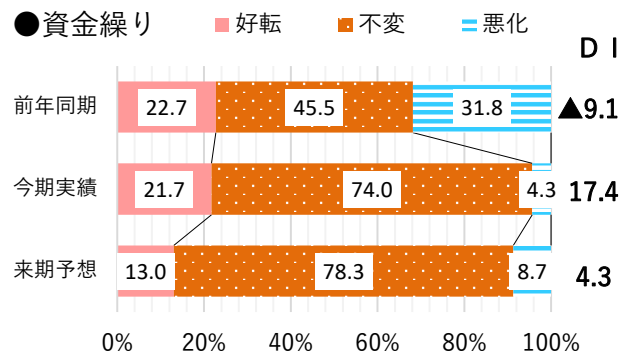
次いで多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、不足している」という回答でした。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	1
	適正	2
	不足	2
不変だった	過剰	0
	適正	9
	不足	6
減少した	過剰	0
	適正	1
	不足	2

## 資金繰り、設備投資

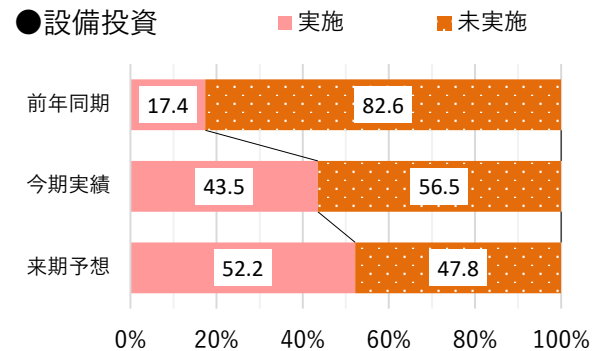
今期の資金繰りDIは17.4で、前年同期と比べ26.5ポイント上昇し、プラスに転じました。

来期は、資金繰りの好転傾向が弱まると予想しています。



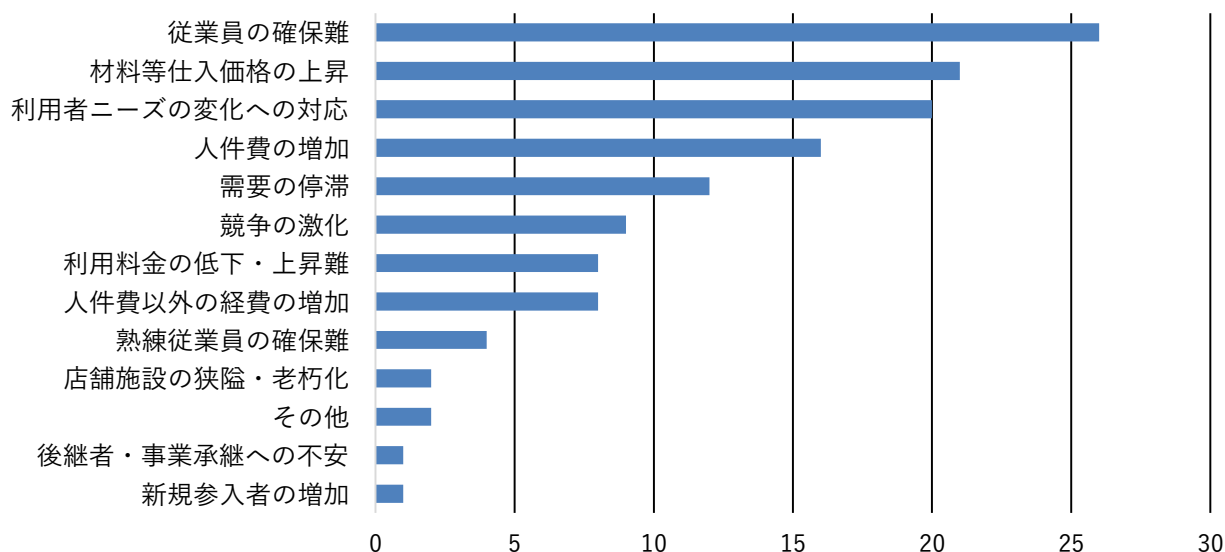
設備投資を実施した企業の割合は43.5%で、前年同期と比べ26.1%増加しました。投資内容は、1位が「車両運搬具」、2位が「サービス設備」、「OA機器」の順です。

来期に設備投資を計画している企業の割合は52.2%で、増加を予想しています。



## 経営上の問題点

今期直面している経営上の問題点は、1位が「従業員の確保難」、2位が「材料等仕入価格の上昇」、3位が「利用者ニーズの変化への対応」の順です。



## 企業の声

### [今期の業況について]

- まん延防止等重点措置が解除されてから、道内の他市町村や本州からの来客が徐々に増えているが、材料等の値上げが多く、採算に大きな変化はない。（飲食店）
- 昨年同期は、新型コロナウイルスの影響で4～6月実施の修学旅行等が秋へ延期になり、売上が大きく減少したが、今期は予定通り実施されたため、好転した。一般利用者も増えつつある。（旅行代理店）
- 人材確保に苦労している。（出版業）
- 物価上昇により、トリートメントやヘッドスパ等のオプションの利用を控える傾向が見られ、客単価が伸び悩んだ。仕入単価が上昇した。人材確保の状況や賃金に変わりはない。（美容業）
- 全般的にコストが上昇し、収益が減少した。テナント料を引き上げる。（ビルメンテナンス）
- 最低賃金の引き上げによる採算の悪化が懸念される。（ビルメンテナンス）
- 観光客や市民の行動が活発化し、売上が増加した。（ビルメンテナンス）
- 前期比の客数増加と、営業努力による客単価の上昇により売上が増加した。（不動産代理・仲介業）
- 新型コロナウイルスの影響はなく、コロナ禍の状況に戻った。（スポーツ施設）
- 利用客数の減少に加え、仕入価格が上昇したことで利益が減少した。（写真業）
- 利用客数の減少は避けられない。（教養・技能教授業）
- 医療関連事業を行っているため、コロナ禍ではあるが業績は伸びている。仕入先からのメーカーから、値上受け入れの要請が多数ある。工場の燃料費は高止まりの状況にある。人材が充足している部署と不足している部署があり、営業の人材不足が課題だ。（各種物品賃貸業）

### [来期の業況について]

- 夏に向けて客数が増えると思うが、材料仕入価格が高騰しているのので、現在の収益を維持または若干増加できれば良いと思う。（飲食店）
- 今期以上に業況が悪化すると、非常に厳しい。（飲食店）
- 旅行業界全体は回復傾向にあるが、7～9月は修学旅行等大型の顧客がなく、一般の団体客の動きはまだ少ないため、業況は悪化を予想する。（旅行代理店）
- 新規事業を検討しているので、人材確保を考えたい。（出版業）

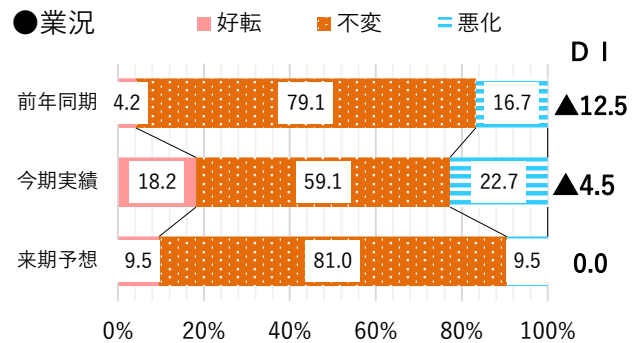
- 例年夏は客数が増えるので、今年も同様だと思う。仕入価格は上昇傾向が続くと思われる。人材の採用などは予定していない。売上が増加すれば、従業員の賃金を引き上げたい。(美容業)
- 売上は増加を見込むが、原油、原材料、資材、電気料金等の高騰により、採算の好転は難しいと思う。(ビルメンテナンス)
- 新型コロナウイルスやウクライナ情勢の影響で、見通しが立てづらい。(ビルメンテナンス)
- テナント料の値上げにより、好転を見込む。(ビルメンテナンス)
- 顧客の動向を注視し、売上の増加傾向や客単価の上昇傾向を維持したい。(不動産代理・仲介業)
- 物価上昇を受け、7月からサービス価格の引き上げを予定するが、収益は増加しないと思う。(写真業)
- 資金繰りは好転するが、客数減少は避けられない。収入に見合った会社規模を検討する必要がある。(教養・技能教授業)
- ロシアのウクライナ侵攻により、燃料費の高騰が懸念される。請負業務など、労働集約型事業も行っているため、積極的に人材を確保していきたい。(各種物品賃貸業)

# 建設業

## 業況、売上、採算

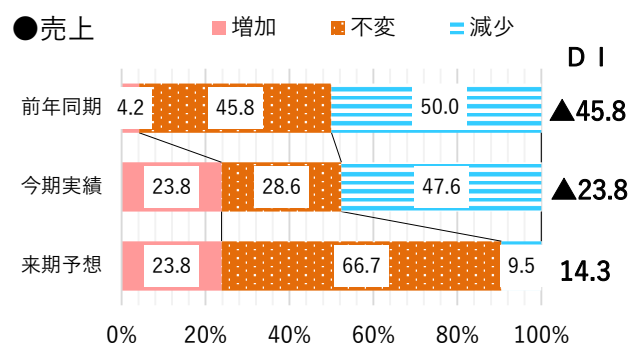
今期（2022.4～6）の業況判断DIは▲4.5で、前年同期(2021.4～6)と比べ8.0ポイント上昇しました。

来期（2022.7～9）は、業況の悪化傾向が弱まると予想しています。



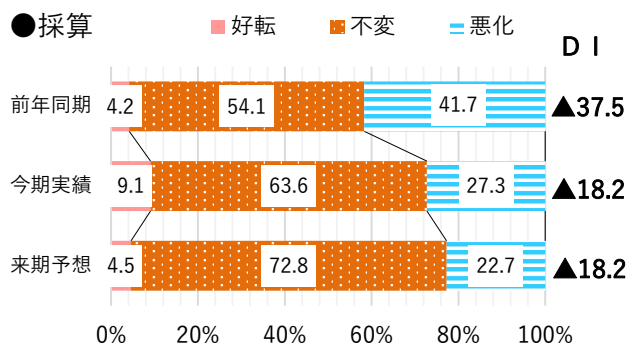
今期の売上高DIは▲23.8で、前年同期と比べ22.0ポイント上昇しました。

来期は、売上が大幅に増加し、プラスに転じると予想しています。

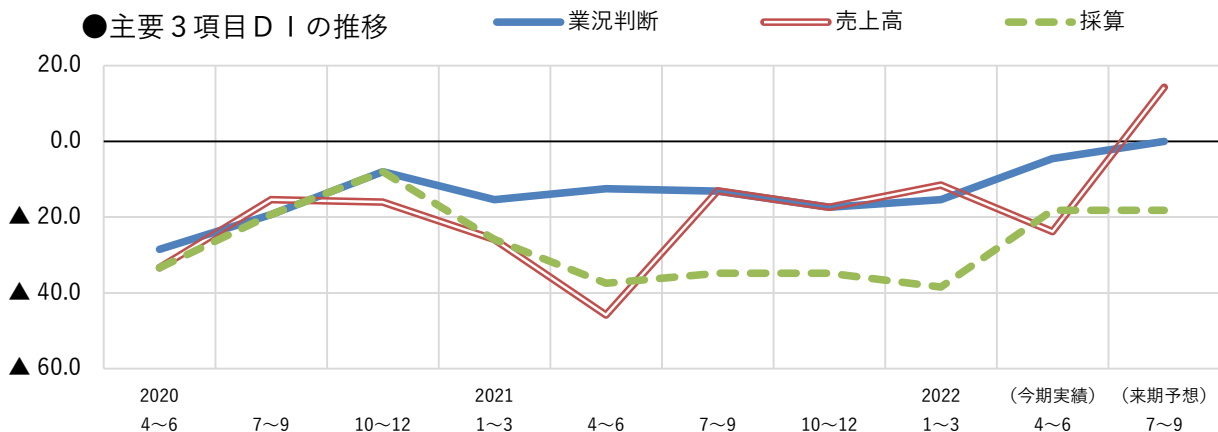


今期の採算DIは▲18.2で、前年同期と比べ19.3ポイント上昇しました。

来期は、採算の横ばいを予想しています。



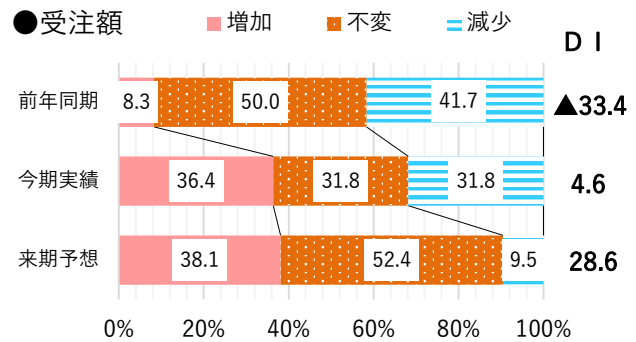
### ●主要3項目DIの推移



受注（新規契約工事）額、契約残（未消化工事高）、材料仕入単価

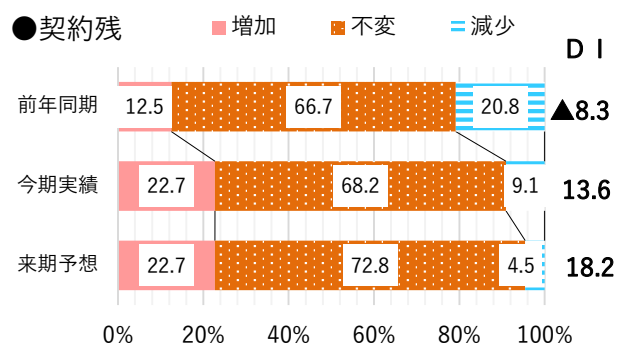
今期の受注額DIは4.6で、前年同期と比べ38.0ポイントと大幅に上昇し、プラスに転じました。

来期は、受注額の増加傾向が強まると予想しています。



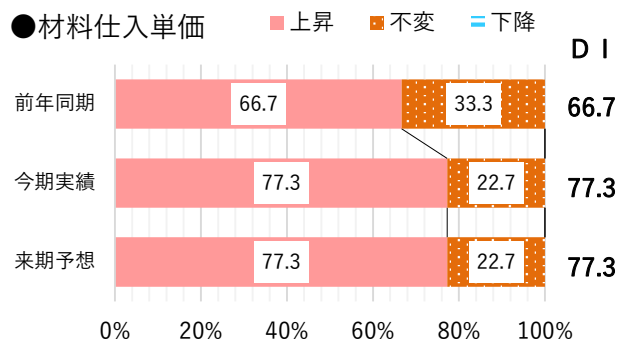
今期の契約残DIは13.6で、前年同期と比べ21.9ポイント上昇、プラスに転じました。

来期は、契約残に大きな変化はないと予想しています。



今期の材料仕入単価DIは77.3で、前年同期と比べ10.6ポイント上昇しました。

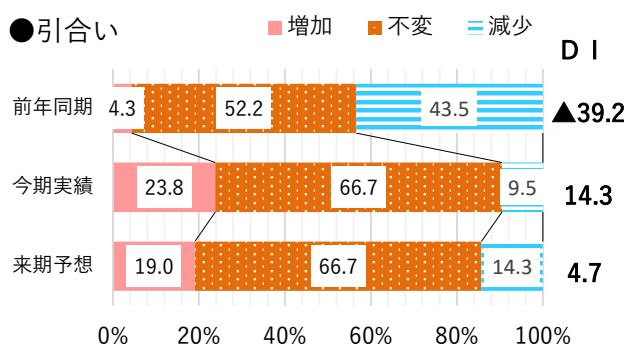
来期は、材料仕入単価の横ばいを予想しています。



引合い

今期の引合いDIは14.3で、前年同期と比べ53.5ポイントと大幅に上昇し、プラスに転じました。

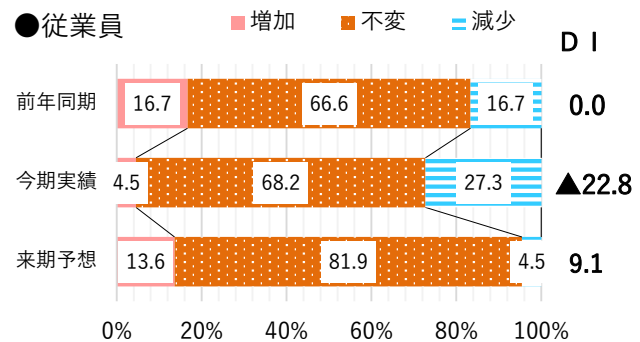
来期は、引合いの増加傾向が弱まると予想しています。



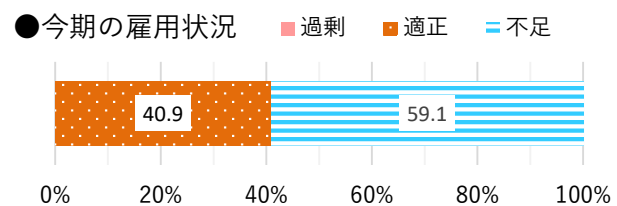
## 従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは▲22.8で、前年同期と比べ22.8ポイント低下し、マイナスに転じました。

来期は、従業員数が大幅に増加し、プラスに転じると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業はなく、適正であると回答した企業の割合は40.9%、不足していると回答した企業の割合は59.1%でした。



従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答で、建設業全体の36.3%を占めています。

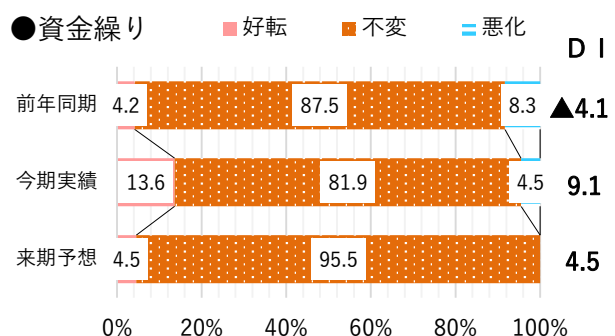
次いで多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、不足している」という回答でした。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	0
	不足	1
不変だった	過剰	0
	適正	8
	不足	7
減少した	過剰	0
	適正	1
	不足	5

## 資金繰り、設備投資

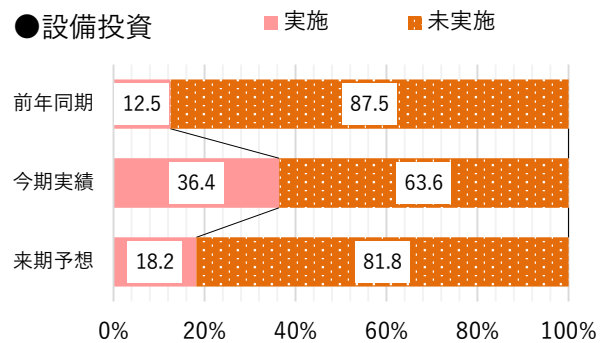
今期の資金繰りDIは9.1で、前年同期と比べ13.2ポイント上昇し、プラスに転じました。

来期は、資金繰りに大きな変化はないと予想しています。



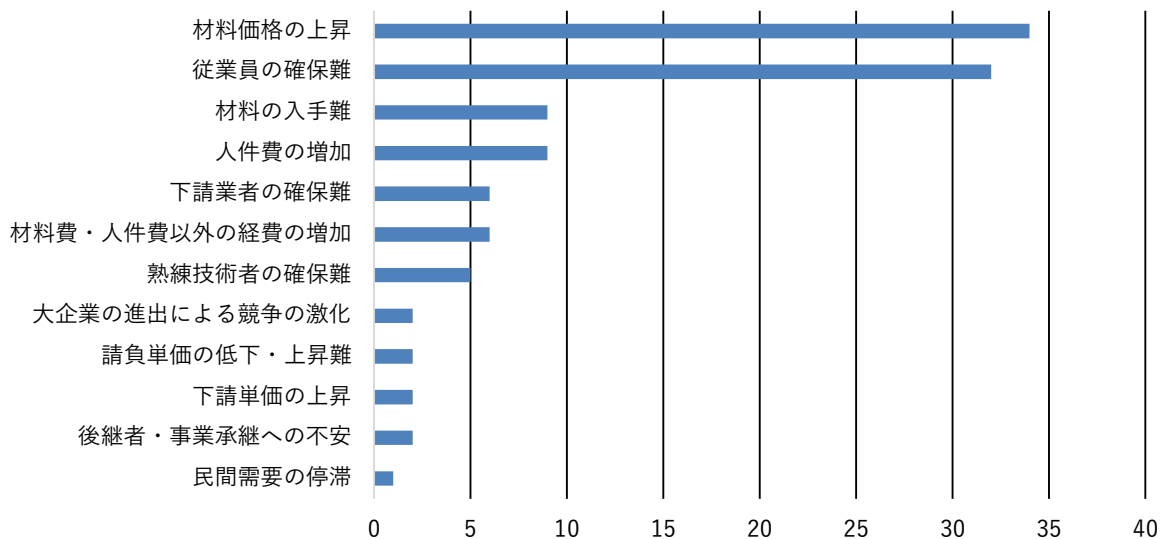
設備投資を実施した企業の割合は36.4%で、前年同期と比べ23.9%上昇しました。投資内容は、1位が「車両運搬具」、「OA機器」（同位）2位が「建物」の順です。

来期に設備投資を計画している企業の割合は18.2%で、減少を予想しています。



## 経営上の問題点

今期直面した経営上の問題点は、1位が「材料価格の上昇」、2位が「従業員の確保難」、3位が「材料の入手難」、「人件費の増加」（同位）の順です。



## 企業の声

[今期の業況について]

- 建設施工管理の技術者採用に苦労している。資材価格の高騰や為替に注目している。（一般土木工事業）
- 木材や合板を中心に、仕入単価が上昇している。（一般土木工事業）
- 新型コロナウイルスの影響で、将来の見通しが立てづらい。（職別工事業）
- 鉄鋼関係の材料仕入単価が上昇傾向にある。（職別工事業）
- 材料仕入単価が2割程上昇した。（職別工事業）
- 今のところ仕入価格の上昇分は転嫁できており、業況に大きな変化はない。（一般管工事業）
- 新型コロナウイルス流行の影響で中止していたイベントの再開により、屋外の環境整備が活発になり、年中仕事の予定がある。天候の悪化により中止したイベントの処理業務も多い。（造園業）
- 材料仕入単価は上昇したが、売上等に大きな変化はない。（造園業）
- 経験者を雇用できたことで受注が増え、業況は好転した。（電気工事業）

[来期の業況について]

- 物価上昇による需要の落ち込みや、価格転嫁しきれないケースが増える可能性がある。人員不足による機会損失の増加も懸念される。（一般管工事業）
- 手持工事量が前年同期並みにあるので、問題なく消化できれば売上は順調に伸びると思う。（電気工事業）

# 市内企業倒産状況

2022年4月~6月

負債1千万円以上、東京商工リサーチ調べ

倒産件数は2件、前年同期比減少  
負債総額は3億2,500万円、前年同期比増加

	倒産件数	負債総額
	<u>2件</u>	<u>3億2,500万円</u>
前年同期比	件数 -2件 (前年同期 4件)	負債 +2億6,800万円 (前年同期 5,700万円)
■4月 なし		
■5月 なし		
■6月 青果物卸売（負債2億1,500万円：販売不振による特別清算）、パン製造・販売（負債1億1,000万円：販売不振による破産）の2件が発生した。		

## 市内建築確認申請受付件数・新設着工住宅戸数状況

2022年4月~6月、小樽市建設部調べ

建築確認申請受付件数は120件、前年同期比減少  
新設着工住宅戸数は69棟105戸、前年同期比減少

	建築確認申請受付件数	新設着工住宅戸数
	<u>120件</u>	<u>69棟105戸</u>
前年同期比	件数 -5件 (前年同期 125件)	戸数 -5棟-90戸 (前年同期 74棟195戸)
※変更確認又は変更通知を除く。		